

第276回 日本循環器学会関東甲信越地方会

日 時 令和7年6月14日(土)
会 場 ステーションコンファレンス東京 5・6階 (千代田区)
第Ⅰ会場 (503CD) ※LIVE配信会場
第Ⅱ会場 (503AB)
第Ⅲ会場 (501A)
第Ⅳ会場 (501B)
第Ⅴ会場 (602AB)
第Ⅵ会場 (602CD) ※心臓ウェットラボ会場
PCセンター (501S)
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー4～6階
TEL 03-6888-8080
会 長 セントマーガレット病院 内科・循環器内科
井川 修

御 案 内

今回よりLIVE配信(第Ⅰ会場)を行うことになりました。これに伴い、事前参加登録を開始いたします。詳細は地方会HPをご確認ください。

1. 参加費：会員／非会員(医師) 3,000円
後期研修医、コメディカル 1,000円
初期研修医、医学部学生 無料
※当日、受付にて初期研修医証明書、学生証をご提示下さい。

2. 受付時間：参加受付 8:30-18:10
PCセンター 8:30-17:30

3. 一般演題発表時間：口演5分、討論3分

4. Award：Student Award、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Awardを設け、各Award最優秀賞、優秀賞を顕彰いたします。

選考委員による第一次書類審査による選考後、地方会当日口述発表による第二次審査で審査委員から発表者に対し質疑応答を行います。(口演6分、討論4分)

Student Award：第Ⅰ会場：16:00-17:00

Resident Award：第Ⅰ会場：17:10-18:10

Case Report Award：第Ⅱ会場：17:10-18:00

Clinical Research Award：第Ⅱ会場：16:00-16:50

なお、以下の項目が審査の対象となります。

- 1) 正しい医学用語の使用
- 2) 発表時間の厳守と態度
- 3) 考察
- 4) 質問に対する応答
- 5) 循環器臨床に対する貢献度

表彰式は評議員会終了後に評議員懇親会で行います。

5. その他：会場内では携帯電話のスイッチはお切りいただくかマナーモードに設定して下さい。
また、講演中の写真撮影はご遠慮下さい。

託児サービスのご案内：

日本循環器学会関東甲信越支部では、地方会へのご参加の利便を図るため託児サービスを行っております。

評議員会：地方会終了後、第Ⅰ会場で行います。

(懇親会は5階フロアにて行います。)

次回地方会：第277回地方会は次の通りです。

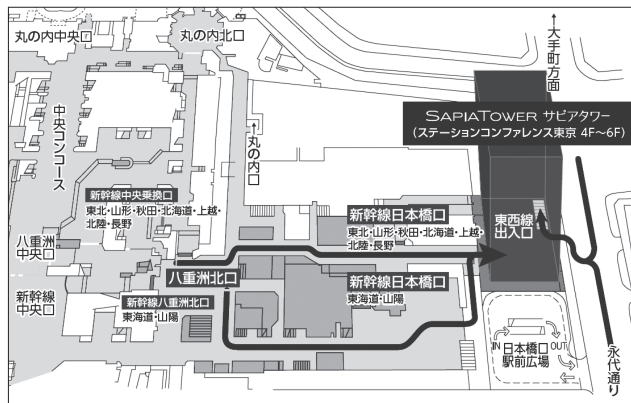
日時：令和7年9月13日(土)

会場：ステーションコンファレンス東京(千代田区)

会長：足利 貴志

(武蔵野赤十字病院 循環器内科)

ステーションコンファレンス東京 案内図



交通のご案内

【JR線・東京メトロ】

「東京駅」日本橋口(新幹線専用改札口) 徒歩1分

八重洲北口改札口 徒歩2分

東京メトロ東西線「大手町駅」B7 出口から直結

ご挨拶

第276回日本循環器学会関東甲信越地方会
会長 井川 修
セントマーガレット病院 内科・循環器内科



セントマーガレット病院内科・循環器内科の井川 修でございます。このたび第276回日本循環器学会関東甲信越地方会の大会長を拝命いたしましたこと、大変、光栄に存じております。

これまで本会では、大会長が「一つのテーマ」のもとに知恵と工夫を凝らし特徴のある優れたプログラムを企画されてこられました。今回、「基本に立ち戻る」という意味で、テーマを「心臓構造から再考する循環器診療」とさせていただきました。近年、循環器診療には大きな進歩がみられ、そこに求められる知識、情報は変わってきているものの、いつの時代にも変わりなく必要とされているのが基礎的な心臓構造情報ではないかと考えます。

主題セッションの座長・演者をお勤めいただく先生方には、勝手ながら可能な限り、上記、「テーマ」にそった議論をお願いさせていただきました。また、教育セミナーでは、はじめての試みではありますが、(若手)医師・コメディカル・学生の皆様(事前予約制)を対象とする心臓ウェットラボ(午前・午後)を企画させていただきました。これは20数年に渡り、「心臓ウェットラボ」に関わってきた私の経験をもとに計画をさせていただきましたが、ヒト実心臓構造を参考に豚実心臓構造の説明を行いながら系統的に解剖していくものであります。「普段、当たり前のこと、既に結論が出ていること」として片付けられている構造の中にも、緻密な観察を行うことにより「思いがけない発見と、新たな展開がある」ことを掴んでいただければと考えています。

多くの皆様に本会へご参加をいただき、有意義で実りある議論が繰り広げられること心より願っております。

【発表者の方へ】

発表はすべてPCプレゼンテーションとなりますので、二次元コードより要領をご確認の上、ご発表の30分前までにPCセンターへお越し下さい。



第276回 日本循環器学会関東甲信越地方会

日時：令和7年6月14日（土）

会場：ステーションコンファレンス東京 5・6階（千代田区）

会長：セントマールゲレット病院 内科・循環器内科 井川 修

第Ⅰ会場		第Ⅱ会場		第Ⅲ会場		第Ⅳ会場		第Ⅴ会場		第Ⅵ会場	
8:50	開会挨拶										
9:00	会長企画セッションⅠ これが私流パルス フィールアプレー ーション 当院の工夫と経験 演者：奥村 恭男、 宮崎 晋介、 松尾 征一郎、 高月 誠司	9:00	一般演題1 心不全 1 P8	9:00	一般演題3 不整脈 1 P13	9:10	一般演題8 虚血性心疾患 1 P18	9:00	一般演題13 心筋炎・心筋症 1 P22	9:00	心臓解剖 パネル展示会場
		9:40		9:50		10:00		9:40			
		9:50	一般演題2 心不全 2 P8	9:55	一般演題4 不整脈 2 P14	10:05	一般演題9 虚血性心疾患 2 P18	9:45	一般演題14 心筋炎・心筋症 2 P22		
10:30	P4	10:25		10:30		10:40		10:25		10:30	心臓ウェット ラボ① 講師：井川 修 共催：日本光電工業 P27
10:40	教育セッションⅠ 左心耳マネー ジメント ～その 問題点と展望～ 演者：坂本 俊一郎、 近藤 祐介、 藤野 紀之、 七里 守	10:40	循環器病対策推 進セッション 脳卒中・心臓病 等総合支援セン ターモデル事業 の現状と課題 演者：石津 智子、 中埜 信太郎、 桑原 宏一郎	10:35	一般演題5 不整脈 3 P14	10:45	一般演題10 虚血性心疾患 3 P19	10:30	一般演題15 心筋炎・心筋症 3/ 心内膜炎 P23	10:30	
12:10	P4	12:10	P9	12:10	一般演題6 静脈/末梢血管 P15	11:20		11:30	一般演題16 弁膜症 P24	11:30	心臓解剖 パネル展示会場
12:20	ランチョンセミナー 1 循環器医が知るべき SGLT2阻害薬の威力： 心不全と腎保護の最前線 演者：浅井 邦也 共催：日本ペーリンガー・インゲルハイム/ 日本イーライリリー	12:20	ランチョンセミナー 2 "siRNA"ってなんだ？ ATTRアミロイドーシ ス診療の新たなモダリティ 演者：程 久美子 共催：Alnylam Japan	12:20	ランチョンセミナー 3 Post-DanGer Shock 時代 のAMI 心原性ショック治療 演者：澁谷 淳介、鈴木 翔 共催：日本アビオメッド	12:20	ランチョンセミナー 4 2025年問題をふまえた 循環器診療ー腎臓に 配慮した抗血栓療法ー 演者：石井 秀樹 共催：プリストル・マイヤーズ スクイブ/ファイザー	12:20	ランチョンセミナー 5 ADVANCE to the Next AF Ablation～ What's the FARAPULSE ～ 演者：近藤 祐介、久佐 茂樹 共催：ボストン・サイエンティ フィックジャパン	12:20	
13:10	P4	13:10	P9	13:10	P16	13:10	P20	13:10	P25	13:20	心臓ウェット ラボ② 講師：井川 修 共催：日本光電工業 P27
13:20	教育セッションⅡ HFpEF診療の最 前線 ～その問 題点と展望～ 演者：猪又 孝元、 遠藤 仁、 末永 祐哉、 小保方 優	13:20	心不全療養指導士 セッション 病院と地域をつ なぐ心不全療養 指導士の役割 演者：石阪 光央、 酢谷 純子、 須田 伸隆、 林 太祐	13:20	第23回ダイバーシティ・ フォーラム Beyond Borders: そのキャリア、国 内限定でいいの？ 演者：中尾（舛方） 葉子、 植竹 俊介、 藤原 健史	13:20	会長企画 セッションⅡ ベレーシング治療の最 前線 ～その問題点 と新たな展開～ 演者：小鹿野 道雄、 西山 信大、 佐藤 俊明、 小和瀬 晋弥	13:20	学術委員会企画 セッション 心臓検診の新たな時代へー 最新ガイドラインから デジタル化を考えるー 演者：岩本 眞理、 小林 さゆき、 笹野 哲郎、 後藤 信一	13:20	
14:50	P5	14:50	P9	14:50	P16	14:50	P20	14:50	P25	14:20	終了
15:00	デザートセミナー 1 左心耳とじて、未来をのく心房細動 マネジメントにおける「WATCHMAN 左心耳閉鎖器」の役割を考える 演者：小崎 遼太、高橋 良英 共催：ボストン・サイエンティ フィックジャパン	15:00	デザートセミナー 2 心アミロイドーシ ス 演者：加藤 賢、遠藤 仁 共催：ファイザー	15:00	デザートセミナー 3 「働き方改革と心房細動治療の両 立を目指して」ー今までの心房 細動治療におけるワンオペレー ター ABL ー当院でのPFAワン オペレーター ABL現状や方法 演者：藤本 雄飛 共催：日本メトロニック	15:00	一般演題12 心臓・腫瘍/腫 瘍循環器 P21	15:00	一般演題17 大動脈 P25	15:35	一般演題18 デバイス P26
15:50	P5	15:50	P10	15:50	P16	15:40		15:35			
16:00	Student Award	16:00	Clinical Research Award P10	16:00	一般演題7 先天性/基礎研究/ その他 P16			16:10			
17:00	P5	16:50		17:00				16:10			
17:10	Resident Award	17:10	Case Report Award P11						医療安全・医療倫 理に関する講習会 (DVDセッション)		
18:10	P6	18:00						18:10	P26		
18:10	閉会挨拶										
18:15	評議員会										

【専門医単位登録に関して】

専門医単位に関するセッション（地方会参加単位、教育セッション、医療安全・医療倫理に関する講習会）は、セッション開始前に単位登録手続デスクへお越しくださいますようお願い申し上げます。

セッション終了後には単位のご登録ができないためご注意ください。

また地方会参加単位登録（5単位）、教育セッション（3単位）、医療安全・医療倫理に関する講習会（2単位）はそれぞれ単位の登録

手続を行っていただく必要がございます。

お手数ではございますがそれぞれの単位のご登録をお願いいたします。

■「地方会参加単位」（5単位）受付時間 9:00～18:10（開催終了まで）

■「教育セッション」（3単位）受付時間 10:10～11:40/12:50～14:20（開始30分前から終了30分前まで）

■「医療安全・医療倫理に関する講習会」（2単位）受付時間 15:40～17:40（開始30分前から終了30分前まで）

第Ⅰ会場

会長企画セッションⅠ

9:00-10:30

座長（東京医科大学病院循環器内科） 里見 和浩

座長（日本医科大学付属病院循環器内科） 岩崎 雄樹

これが私流パルスフィールドアブレーション 当院の工夫と経験

昨年、本邦で心房細動に対するパルスフィールドアブレーションが保険償還された。
実施する施設も増え、TIPSや合併症を共有し今後の治療に活かしたい。

私が導き出したバリパルスアブレーションの最適解 — 3Dマッピングを活かした術者主導の工夫
（日本大学医学部内科学系循環器内科学分野） 奥村 恭男

医療費を考慮したパルスフィールドアブレーション
（東京科学大学循環器内科） 宮崎 晋介

安全な心房細動アブレーションを目指して ～ Minimum Invasive Pulse Field Ablation ～
（杏林大学医学部付属病院循環器内科） 松尾征一郎

パルスフィールドアブレーション・安全な使い方
（慶應義塾大学医学部不整脈先進治療学寄附研究講座） 高月 誠司

教育セッションⅠ

10:40-12:10

座長（日本医科大学心臓血管外科） 石井 庸介

座長（東邦大学医療センター大橋病院循環器内科） 原 英彦

左心耳マネージメント ～その問題点と展望～

左心耳閉鎖デバイスの開発によってカテーテル的にも外科的にも左心耳閉鎖の重要性がクローズアップされてきた。内科・外科による左心耳閉鎖の問題点と展望を論ずる。

外科的左心耳閉鎖の意義および変遷
（日本医科大学武蔵小杉病院心臓血管外科） 坂本俊一郎

2025年における経皮的左心耳閉鎖の立ち位置～国内と世界のエビデンス、そしてこれからのエビデンス～
（千葉大学大学院医学研究院循環器内科学） 近藤 祐介

心房細動アブレーションの期待と課題
（東邦大学医学部内科学講座循環器内科学分野） 藤野 紀之

心房細動による心原性塞栓症に対する治療戦略の進歩と新たな展開
（榊原記念病院循環器内科） 七里 守
岡部 浩哉、寺田 舞、高見澤 格、磯部 光章

ランチョンセミナーⅠ

12:20-13:10

共催：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社/日本イーライリリー株式会社

座長（国際医療福祉大学医学部循環器内科学） 杉村宏一郎

循環器医が知るべきSGLT2阻害薬の実力：心不全と腎保護の最前線

（日本医科大学循環器内科） 浅井 邦也

教育セッションⅡ
13:20-14:50

座長（日本医科大学循環器内科） 浅井 邦也
座長（筑波大学医学医療系循環器内科） 石津 智子

HFpEF診療の最前線 ～その問題点と展望～

HFpEF 診療の最新知見を共有し、疾患概念の整理、予後改善の可能性、診断法の進歩について議論する。

Overview—HFpEFという疾患概念

（新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学） 猪又 孝元

HFpEF に潜む二次性心筋症 ～予後改善を目指すもう一つの切り口～

（慶應義塾大学医学部循環器内科） 遠藤 仁

我々は日本人 HFpEF 患者の「予後」を変えられるか

（順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学講座） 末永 祐哉

HFpEF診断のパラダイムシフト～運動負荷試験を使ったアプローチ～

（群馬大学医学部附属病院循環器内科） 小保方 優

デザートセミナー 1

15:00-15:50

共催：ボストン・サイエンティフィックジャパン株式会社

座長（千葉西総合病院） 桃原 哲也

座長（日本大学医学部内科学系循環器内科学分野） 奥村 恭男

-左心耳として、未来をひらく-

心房細動マネジメントにおける『WATCHMAN左心耳閉鎖術』の役割を考える

左心耳閉鎖のUp-To-Date -古きを訪ねて新しきを知る-

（昭和医科大学内科学講座循環器内科学部門） 小崎 遼太

これからの心房細動治療に求められるもの

（新百合ヶ丘総合病院） 高橋 良英

Student Award

16:00-17:00

座長（東京大学大学院医学系研究科心臓外科） 小野 稔

座長（日本医科大学武蔵小杉病院救急・総合診療センター総合診療科） 塚田(哲翁)弥生

審査委員長（日本大学医学部内科学系循環器内科学分野） 奥村 恭男

審査委員（新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学） 柏村 健

審査委員（杏林大学医学部循環器内科） 副島 京子

審査委員（心臓血管研究所循環器内科） 加藤 祐子

I-1 AI搭載スマートフォンアプリは12誘導心電図から肺高血圧症を推定出来るか？

（聖マリアンナ医科大学医学部） 服部 隼也

関 凱斗

（聖マリアンナ医科大学循環器内科） 貝原 俊樹、佐々木憲一、明石 嘉浩

（聖マリアンナ医科大学医学教育文化部門医学教育研究分野） 黄 世捷

I-2 心室性不整脈により失神したBarlow's diseaseの1症例

（昭和医科大学医学部医学科） 右近 初奈

（昭和医科大学江東豊洲病院循環器センター循環器内科） 池田 尚子、中澤 幹、石永 智之、相澤 直樹、
柴田 恵多、古屋 貴宏、佐藤 千聡、西藏 天人、
若林 公平、丹野 郁

I-3 難治性心膜液貯留および心タンポナーデを呈した心膜限局IgG4関連収縮性心膜炎の一例

(東邦大学医学部医学科) 正田 琴巳
(東邦大学医療センター大森病院循環器内科) 菊島 朋生、久武 真二、矢野 健介、矢部 敬之、
佐地 真育、木内 俊介、中西 理子、藤野 紀之、
天野 英夫、池田 隆徳

I-4 超聴診器による運動誘発性肺高血圧の検出

(群馬大学医学部医学科) 水倉祥太郎
(群馬大学循環器内科) 小保方 優、湯浅 直紀、鏡 和樹、村上 文崇、
反町 秀美、石井 秀樹

I-5 Maze手術後洞調律下に左房内血栓を形成し心原性脳塞栓症を発症した1例

(日本医科大学医学部医学科) 坂本 知美
(日本医科大学付属病院循環器内科) 内山沙央里、岩崎 雄樹、浅井 邦也
(日本医科大学付属病院脳神経内科) 横須賀 佑、鈴木健太郎、木村 和美
(日本医科大学付属病院心臓血管外科) 丸山 雄二、石井 庸介

I-6 経カテーテル大動脈弁植込み術による脳梗塞に対してブレインハートアプローチで超急性期に血栓回収した一例

(東邦大学医学部医学科) 望月 太勢
(東邦大学内科学講座循環器内科学分野) 佐地 真育、櫻井康二郎、小島 至正、佐野 隆英、
八尾進太郎、大久保 亮、矢部 敬之、木内 俊介、
中西 理子、藤野 紀之、天野 英夫、久武 真二、
池田 隆徳
(東邦大学医学部医学科外科学講座心臓血管外科学分野 (大森)) 川田 幸太、藤井 毅郎
(東邦大学医学部医学科内科学講座神経内科学分野 (大森)) 長澤 潤平、狩野 修

Resident Award

17:10-18:10

座長 (東京大学医学研究所附属病院循環器内科) 武田 憲文
座長 (日本医科大学心臓血管外科) 石井 庸介
審査委員長 (東京科学大学循環制御内科学) 笹野 哲郎
審査委員 (筑波大学医学医療系循環器内科) 石津 智子
審査委員 (防衛医科大学校循環器内科) 足立 健
審査委員 (日本医科大学付属病院循環器内科) 村田 広茂

I-7 ステロイド治療開始早期の心臓病理組織像を観察できた心臓サルコイドーシスの1剖検例

(公立藤岡総合病院研修管理センター) 内藤 篤志
高松 寛人、小野 洋平、植田 哲也、間渕由紀夫、
井上 雅治、鈴木 忠

I-8 トランスサイレチン型心アミロイドーシス治療効果指標としてのピロリン酸シンチグラムの可能性

(自治医科大学附属病院循環器内科) 納富 那菜
原田 顕治、新保 昌久、苅尾 七臣
(自治医科大学附属病院循環器内科/自治医科大学臨床薬理学部門) 澤城 大悟、桂田 健一

I-9 冠動脈ステント内再狭窄を繰り返した限局性冠動脈炎の一例

(国立国際医療研究センター循環器内科) 三村 緋梨
三宅 渉、福田 泰生、和田 瑞貴、久保田修司、
中川 堯、榎本 善成、岡崎 徹、山本 正也、
原 久男、廣井 透雄

I-10 14歳女児に突然発症した可逆性完全房室ブロックに対し、リードレスペースメーカー挿入が奏功した一例

(山梨大学臨床研修センター) 深澤虎太郎
(山梨大学循環器内科) 黒木 健志、鮎沢 晶、江口 実佑、田中 裕也、
植松 学、堀越 健生、出山順太郎、朝比奈千沙、
須藤 洸司、大森 一平、相澤 聖子、山田 亮太、
吉崎 徹、渡辺 陽介、小林 剛、中村 和人、
中村 貴光、佐藤 明
(山梨大学小児科学講座) 吉沢 雅史

I-11 左室最上部(LV summit)周囲脂肪性状とホルター心電図上の心室期外収縮数の関連

(千葉西総合病院循環器内科) 河合 謙
春木 匠悟、宿谷 篤、赤座 慎、新田 正光、
廣瀬 信、三角 和雄
(国際医療福祉大学医学部市川病院循環器内科) 船橋 伸禎
(群馬県立心臓血管センター循環器内科) 中村 紘規
(東京慈恵会医科大学葛飾医療センター循環器内科) 山下 省吾

I-12 Doxorubicinによる、晩発性の薬剤性心筋症が疑われた一例

(千葉市立海浜病院循環器内科) 吉池 桃
小林 隆広、山下 大地、市本 英二、長谷川敦史、
宮原 啓史

第Ⅱ会場

一般演題 セッション1 心不全1

9:00-9:40

座長 (新東京病院リハビリテーション室) 内山 覚
座長 (聖路加国際病院循環器内科) 西畑 庸介
コメンテーター (横浜市立大学循環器内科学) 小西 正紹

Ⅱ-1 循環器単科病院における訪問看護の取り組み

(あやせ循環器リハビリ病院) 三原 千代

Ⅱ-2 外来心リハカードを使用した運動習慣定着への取り組み

(筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター水戸協同病院リハビリテーション部) 伊藤 剛
大橋 良、坂田 薫、池田 佳樹、大平 嵩晃
(筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター水戸協同病院循環器内科) 外山 昌弘

Ⅱ-3 Fantastic fourと心臓リハビリテーションの併用により運動時の周期性呼吸の消失を認めたHFrEF患者の一例

(大宮中央総合病院循環器内科) 明石 直之
中島 敏明
(自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科) 宇賀田裕介、藤田 英雄

Ⅱ-4 悪性胸膜中皮腫に対してゴアテックスを用いた左胸肺全摘後に収縮性心膜炎様の心室拡張障害をきたした一例

(上尾中央総合病院心臓血管センター循環器内科) 籠田 正幸
増田新一郎、田中小百合、谷本 周三、緒方 信彦、
一色 高明
(上尾中央総合病院病理診断科) 守川 春花、杉谷 雅彦

Ⅱ-5 超重症大動脈弁狭窄症の透析患者に併発した体液過剰を要因としたリンパ腫の1例

(東京都健康長寿医療センター循環器内科) 二見崇太郎
鳥羽 梓弓、碓井 伸一、石川 譲治、原田 和昌

一般演題 セッション2 心不全2

9:50-10:25

座長 (東邦大学医療センター大森病院循環器内科) 佐地 真育
座長 (虎の門病院循環器センター内科) 播磨 綾子
コメンテーター (かわぐち心臓呼吸器病院循環器内科) 秋山 英一

Ⅱ-6 肺結核症例の心電図、NTPROBNP所見 CTでの肺障害による胸郭内における心臓移動の有無による影響の検討

(国際医療福祉大学医学部医学科) 秋吉 美佳
(国際医療福祉大学医学部市川病院循環器内科) 船橋 伸禎、野島 永司、篠塚 穂香、木内 涼風
(国際医療福祉大学市川病院呼吸器内科) 服部 知洋、増山 英則

Ⅱ-7 若年の心不全を契機に診断された褐色細胞腫の一例

(東邦大学医療センター大橋病院循環器内科) 三木 隼斗
新倉 寛輝、吉満 優希、飯島 雷輔、原 英彦

Ⅱ-8 心不全患者における心電図自動解析のST変化と心血管イベントの関連

(自治医科大学医学部医学科) 住 茜音
(自治医科大学内科学講座循環器内科) 甲谷 友幸、小森 孝洋、星出 聡、荻尾 七臣

II-9 心膜の高度石灰化による特発性収縮性心膜炎の一例
(SUBARU健康保険組合太田記念病院)

小林 巧
齋藤理香子、渡邊 宏哉、湯澤 雅哉、齊藤 翔太、
鮫島 雄祐、矢部 顕人、武中 宏樹、根本 尚彦、
安斎 均

循環器病対策推進セッション

10:40-12:10

座長 (榊原記念病院) 磯部 光章
座長 (自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学兼循環器内科学) 桑原 政成
ディスカッサント (信州大学医学部附属病院循環器内科) 吉江 幸司
ディスカッサント (防衛医科大学校循環器内科) 足立 健
ディスカッサント (筑波大学医学医療系循環器内科) 山本 昌良
ディスカッサント (東海大学医学部内科学系循環器内科学) 伊莉 裕二
ディスカッサント (日本医科大学循環器内科) 浅井 邦也

脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業の現状と課題

関東甲信越支部における各都県での脳卒中・心臓病等総合支援センターの活動も含めた循環器病対策の現状と課題を議論します。

茨城県ハート連～心不全地域連携の取り組み

(筑波大学医学医療系循環器内科) 石津 智子

令和5年度モデル事業活動から見えた課題とその後の方向性

(埼玉医科大学国際医療センター心臓内科) 中埜信太郎
(埼玉医科大学国際医療センター小児心臓外科) 鈴木 孝明

長野県の脳卒中・心臓病等総合支援センターの活動報告

(信州大学循環器内科) 桑原宏一郎

ランチョンセミナー2

12:20-13:10

共催：Alnylam Japan株式会社

座長 (東京大学医学部附属病院循環器内科) 網谷 英介

"siRNA" ってなんだ？ ATTRアミロイドーシス診療の新たなモダリティ

新しい核酸医薬品：原因たんぱく質の産生を阻害するsiRNA

(東京科学大学総合研究院核酸・ペプチド創薬治療研究センター) 程 久美子

心不全療養指導士セッション (チーム医療委員会企画セッション)

13:20-14:50

座長 (東海大学医学部付属八王子病院循環器内科) 森田 典成

座長 (帝京大学医学部臨床検査医学) 横山 直之

病院と地域をつなぐ心不全療養指導士の役割

心不全療養指導士は、患者と家族を支援し、病院から地域医療への移行をスムーズに進めるうえで、重要な役割を果たしています。各施設の取り組みを共有します。

当院における、心不全療養指導士の育成と取り組み

(聖マリアンナ医科大学看護部) 石阪 光央
(聖マリアンナ医科大学) 丹下みつる、川道 有加

心不全療養指導士としての理学療法士の役割と今後の課題

(榊原記念病院リハビリテーション科) 酢谷 純子

心不全患者の暮らしを支える ～心不全療養指導士としての医療ソーシャルワーカーの役割～
(あやせ循環器リハビリ病院地域医療連携室) 須田 伸隆

薬薬連携で担う心不全療養指導
(日本医科大学多摩永山病院薬剤部) 林 太祐

デザートセミナー 2 15:00-15:50 共催：ファイザー株式会社
心アミロイドーシス 座長 (東京慈恵会医科大学附属柏病院循環器内科) 小武海公明

ATTR型心アミロイドーシス診断における当院での取り組み
(千葉大学医学部附属病院循環器内科) 加藤 賢

ATTR心アミロイドーシス診療のUptoDate
(慶應義塾大学医学部循環器内科) 遠藤 仁

Clinical Research Award
16:00-16:50

座長 (千葉大学循環器内科学) 小林 欣夫
座長 (東京女子医科大学心臓血管外科) 新浪 博士
審査委員長 (日本医科大学循環器内科) 浅井 邦也
審査委員 (慶應義塾大学医学部循環器内科) 家田 真樹
審査委員 (昭和医科大学医学部内科学講座循環器内科学部門) 新家 俊郎
審査委員 (信州大学循環器内科) 桑原宏一郎

II-10 血液透析導入期における冠動脈病変の検討
(昭和医科大学横浜市北部病院内科) 菅原 浩仁
(昭和医科大学横浜市北部病院循環器内科) 嶋津 英、落合 正彦

II-11 経皮的左心耳閉鎖術におけるデバイス周囲リークが臨床経過に与える影響：the OCEAN-LAAC registry
(江戸川病院循環器内科/慶應義塾大学循環器内科) 齋藤 哲也
(慶應義塾大学循環器内科) 鶴田ひかる、林田健太郎
(富山大学循環器内科) 田中 修平
(倉敷中央病院循環器内科) 茶谷 龍己、久保 俊介
(札幌東徳洲会病院循環器内科) 八戸 大輔、谷 友之
(新東京病院循環器内科) 長沼 亨
(東海大学循環器内科) 大野 洋平
(済生会熊本病院循環器内科) 岡松 秀治
(札幌心臓血管クリニック循環器内科) 水谷 一輝
(帝京大学病院) 渡邊 雄介
(聖マリアンナ医科大学病院循環器内科) 出雲 昌樹
(榊原記念病院) 佐地 真育
(湘南鎌倉総合病院循環器内科) 水野 真吾
(国立循環器病研究センター循環器内科) 上野 博志
(小倉記念病院循環器内科) 白井 伸一
(仙台厚生病院循環器内科) 中嶋 正貴
(三井記念病院循環器内科) 阿佐美匡彦
(豊橋ハートセンター循環器内科) 山本 真功

II-12 静脈血栓塞栓症の日本人患者を対象とした直接経口抗凝固薬の安全性・有効性の比較

(東京科学大学病院薬剤部) 榎本 彩
永田 将司
(東京理科大学薬学部薬学科臨床薬剤情報学研究室) 真野 泰成
(東京科学大学大学院医歯学総合研究科臨床統計学分野) 北林 遼、平川 晃弘

II-13 透視ガイド下心窩部前方アプローチでの心嚢穿刺における解剖学的ピットホール

(日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科) 岡 英一郎
小林 誠、平山 浩章、澤畠 摩那、小山内悠介、
中島 悠希、田中 匡成、福泉 偉、黄 俊憲、
細川 雄亮、丸山 光紀
(日本医科大学付属病院循環器内科) 浅井 邦也

II-14 3Dスタイルットを用いた右室中部中隔へのリード留置によって得られるベッシング時のQRS幅と波形について

(埼玉県立循環器・呼吸器病センター循環器内科/東京科学大学循環器内科) 高宮 智正
(埼玉県立循環器・呼吸器病センター循環器内科) 野田 信吾、島田えりか、長堀 寛司、櫻井 琢也、
廣岡 翔真、金井 聡、佐藤 彰洋、佐々木和哉、
野々上 明、池田 和也、猪谷 亮介、永吉 信哉、
藤井 真也、村上 彰通、鈴木 輝彦、藤原 堅祐、
宮本 敬史、武藤 誠
(東京科学大学循環器内科) 宮崎 晋介、笹野 哲郎

Case Report Award

17:10-18:00

座長 (東京女子医科大学循環器内科) 山口 淳一
座長 (東松山医師会病院循環器内科) 松本 万夫
審査委員長 (北里大学医学部循環器内科学) 阿古 潤哉
審査委員 (帝京大学医学部内科学講座・循環器内科) 上妻 謙
審査委員 (日本医科大学付属病院循環器内科) 相澤 義泰
審査委員 (獨協医科大学救命救急センター) 菊地 研

II-15 経皮的冠動脈形成術中にたこつぼ心筋症を発症した一例

(日本医科大学千葉北総病院循環器内科) 岡田 泰司
栗原 理、中嶋 翼、小林 綺音、矢田 優人、
中村 広一、渡久地 陸、宮國 知世、合田 浩紀、
柴田 祐作、小林 宣明、高野 雅充

II-16 脳髄黄色腫症の原因遺伝子であるCYP27A1のヘテロ接合体型変異にて著明なアキレス腱肥厚を認めた一例

(伊那中央病院循環器内科) 小山 由志
長谷川和輝、大川慶視郎、宮城 拓弥、酒井 貴弘、
小田切久八、北林 浩

II-17 若年発症の心房粗動を契機に診断された心臓限局性サルコイドーシスの一例

(東邦大学内科学講座循環器内科分野) 眞部 睦紀
菊島 朋生、矢部 敬之、佐地 真育、木内 俊介、
中西 理子、藤野 紀之、天野 英夫、久武 真二、
池田 隆徳

II-18 心臓内腫瘍の経カテーテル的組織生検によって早期診断、治療が可能となった悪性リンパ腫の一例
(東京医科大学病院循環器内科)

川上 恵
富士田康宏、山下 淳、松生真貴子、高木 竜、
手塚 絢子、伊藤 亮介、山本 博之、小菅 寿徳、
里見 和浩

II-19 アトピー性皮膚炎を侵入門戸として3度感染性心内膜炎に罹患し、3度僧帽弁に治療介入した若年男性の一例

(埼玉医科大学総合医療センター心臓内科)

上嶋 紗瑛
沼賀 美紀、米山 史華、橋本 淳貴、三好晃太郎、
北川 快、小形 円、谷 昂大、河原 勇貴、
奥田 希子、阿部 拓朗、安藤 敏行、石原 嗣郎、
小宮山英徳、重城健太郎

(埼玉医科大学総合医療センター心臓血管外科)

岡田 至弘、徳永 千穂

第Ⅲ会場

一般演題 セッション3 不整脈1

9:00-9:50

座長（東海大学医学部付属病院循環器内科）柳下 敦彦

座長（杏林大学医学部付属病院循環器内科）池脇 宏嗣

コメンテーター（広尾病院循環器科）

北條林太郎

Ⅲ-1 持続性心房細動に対するクライオバルーンアブレーション後に可逆的な急性胃拡張を認めた1例

（横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター内科）

近藤 寿哉

堤 勝彦、木村裕一郎、菅野 晃靖

（横浜市立大学附属病院循環器内科）

日比 潔

Ⅲ-2 必須緩徐伝導路が同定できなかった心室頻拍に対してscar homogenizationが有効であった一例

（新百合ヶ丘総合病院循環器内科）

秋元 耕

高橋 良英、清川 篤、福村 健太、西尾 祥郎、

工藤 侃、原 果里奈、田仲 明史、福島 琢、

櫻井 馨

（東京科学大学病院循環器内科）

笹野 哲郎

Ⅲ-3 Cardiac memory様心電図変化時に心臓MRI所見を確認し得た特発性左室心室頻拍の一例

（土浦協同病院循環器内科）

下里 光

原 聡史、瀬戸口実玲、田原 智大、石沢 太基、

平野 秀典、仲田 恭崇、佐藤 慶和、三輪 尚之、

久佐 茂樹、蜂谷 仁

Ⅲ-4 右室高位中隔ペーシングを施行した3症例の検討

（済生会宇都宮病院内科）

室原 健人

（川崎市立川崎病院心臓血管外科）

森 厚夫、船石 耕司、灰田 周史

（川崎市立川崎病院循環器内科）

高 聖淵、西澤 健也

Ⅲ-5 トリカプト中毒により薬剤抵抗性の致死性心室性不整脈を呈した一例

（順天堂大学医学部附属練馬病院循環器内科）

土屋 陽平

藤原 圭、古賀 聖士、赤間 友香、小池 拓真、

堂垂 大志、國本 充洋、福田健太郎、

新居田登三治、柳沼 憲志、井上 健司、

磯田 菊生

（順天堂大学医学部附属練馬病院救急診療科）

鈴木 誠、杉田 学

Ⅲ-6 外科的左心耳結紮術後の心房細動カテーテルアブレーションで左心房内巨大血栓を認めた1例

（埼玉医科大学国際医療センター心臓内科）

成田 昌隆

森 仁、池田 礼史、田中 尚道、佐々木 渉、

永沼 嗣、松本 和久、加藤 律史

（所沢ハートセンター循環器内科）

川野 大輔

（東松山医師会病院循環器内科）

松本 万夫

一般演題 セッション4 不整脈2

9:55-10:30

座長（東京女子医科大学循環器内科） 樋口 諭
座長（杏林大学不整脈先進治療学研究講座） 上田 明子
コメンテーター（亀田総合病院循環器内科） 大野 真紀

Ⅲ-7 近接する両心房の異なる部位からのOverdrive pacingの所見より心房中隔内を巡回する心房頻拍と診断した一例

（川口市立医療センター循環器科） 平澤 丈
林田 啓、渡辺明日香、笹 優輔、庄司 泰城、
宮川 真継、須貝昌之助、磯 一貴、渥美 渉、
立花 栄三、國本 聡
（日本大学医学部付属板橋病院循環器内科） 奥村 恭男

Ⅲ-8 ペースメーカー植え込み時に刺激閾値が高値であったが、経時的に刺激閾値の改善が見られた1例

（安房地域医療センター / 亀田総合病院循環器内科） 八木 有紗
中村 瑠美、吉岡 賢二
（安房地域医療センター） 亀田 俊吾

Ⅲ-9 早期再分極症候群に洞停止を伴う神経調節性失神を合併した若年男性の1例

（東京通信病院循環器内科） 富満 悠葵
東谷 迪昭、福永 寛、間淵 圭、山中 哲雄、
一戸 能麿、深津 徹
（榊原記念病院循環器内科） 井上 完起

Ⅲ-10 敗血症により難渋したVT stormに対して胸部交感神経節ブロック治療が有効であった虚血性心筋症の1例

（東邦大学医学部） 外山 潤
（東邦大学医療センター大橋病院循環器内科） 中村啓二郎、飯島 雷輔、池田 長生、林 典行、
橋本 剛、原 英彦

一般演題 セッション5 不整脈3

10:35-11:15

座長（慶應義塾大学医学部循環器内科） 木村 雄弘
座長（東京女子医科大学病院循環器内科） 松井 優子
コメンテーター（信州大学病院循環器内科） 岡田 綾子

Ⅲ-11 Atrial standstillの覚醒状態による心房興奮領域の変化を3次元マッピングで評価した一例

（東京科学大学病院総合教育研修センター） 比留間百合子
（東京科学大学循環器内科） 後藤健太朗、内藤 倫人、仁井田崇志、西村 卓郎、
梅本 朋幸、米津 太志、宮崎 晋介、前嶋 康浩、
笹野 哲郎

Ⅲ-12 ジスチグミン起因性コリン作動性クリーゼによりTorsade de Pointesを発症した一例

（日本医科大学付属病院臨床研修センター） 岡田 永
（日本医科大学付属病院循環器内科） 岩崎 雄樹、安念 大治、谷 建斗、岡島 周平、
渡邊 将央、関 俊樹、鈴木 啓士、浅井 邦也
（日本医科大学付属病院心臓血管集中治療科） 橋 貴大、伊藤 紳晃、木村 徳宏、宮地 秀樹、
山本 剛

Ⅲ-13 遺残リードによる静脈閉塞のため追加リード留置が困難となり、リードレスペースメーカ植込みを行った1例

（相模原病院循環器内科） 小林 翔太
岡島 裕一

Ⅲ-14 頻発性心房性期外収縮に伴う洞停止が原因の心不全に対してカテーテル心筋焼灼術が奏功した一例
 (東京女子医科大学循環器内科) 犬塚 慶
 坂井 政之、松井 優子、長谷川 瞬、山口 淳一
 (東京女子医科大学循環器内科/
 東京女子医科大学循環器内科先進電気的心臓制御部門) 樋口 諭、柳下 大悟、庄田 守男

Ⅲ-15 難治性心房頻拍に伴い補助循環を要した重症心不全に対しアブレーションが奏功し救命し得た一例
 (筑波大学医学医療系循環器内科) 江頭 航大
 原野 義大、小松 雄樹、沖殿祐太郎、松岡 勇樹、
 本田 幸弥、南 健太郎、飯岡 勇人、木野 旅人、
 篠田 康俊、木全 啓、小川孝二郎、山本 昌良、
 山崎 浩、五十嵐 都、石津 智子

一般演題 セッション6 静脈/末梢血管
11:20-12:10

座長 (日本大学病院循環器内科) 深町 大介
 座長 (東邦大学医療センター大森病院循環器内科) 木内 俊介
 コメンテーター (東京通信病院循環器内科) 東谷 迪昭

Ⅲ-16 巨大水腎症による下大静脈圧排及びピル製剤の長期内服により中枢性深部静脈血栓症をきたした一例
 (日本医科大学千葉北総病院循環器内科) 小林 綺音
 小林 宣明、宮國 知世、中嶋 翼、矢田 優人、
 中村 広一、岡田 泰司、渡久地 陸、新井 俊貴、
 小林 典之、合田 浩紀、高圓 雅博、柴田 祐作、
 栗原 理、植竹 俊介、高野 雅充

Ⅲ-17 広範型肺血栓栓症にヘパリン起因性血小板減少症を合併した一例
 (藤沢市民病院循環器内科) 中井 優作
 塚原 健吾、前島 信彦、高野 桂子、井上 満穂、
 太田 慶介、加藤 聡、高田 龍司、市川 大河

Ⅲ-18 再発性深部静脈血栓症を合併した不全型血管ベッチェット病の一例：静脈血栓症に対する基礎疾患検索の重要性
 (榊原記念病院循環器内科) 齊田 冠斗
 樋口 亮介、高見澤 格、七里 守、磯部 光章

Ⅲ-19 治療中に腎動脈狭窄が自然退縮し、降圧薬が不要となった線維筋性異形成の1例
 (自治医科大学附属さいたま医療センター) 野濱 正輝
 陣内 博行、坂倉 建一、藤田 英雄

Ⅲ-20 SMA閉塞症の早期診断が救命につながった一例
 (平塚共済病院循環器内科) 中田 光宥
 新井 亮太、岡澤 紘子、吉川 宏、羽生 佳弘、
 秋吉 基光、飯谷 宗弘、荒木 恵子、岩井 慎介、
 小林 一士、大西 祐子
 (東京科学大学循環器内科) 笹野 哲郎

Ⅲ-21 カルシフィラキ西斯既往のある包括的高度慢性下肢虚血に伴う難治性潰瘍に対して和温療法が奏功した一例
 (虎の門病院循環器センター内科) 川端 健新
 小宮山知夏、森瀬 昌裕、大森 奈美、播磨 綾子、
 山口 徹雄、西山 信大、藤本 陽、児玉 隆秀

ランチョンセミナー 3

12:20-13:10

共催：日本アビオメッド株式会社

座長（上尾中央総合病院循環器内科） 緒方 信彦

Post-DanGer Shock 時代のAMI 心原性ショック治療

AMI-CSに対するMCS治療－最新エビデンスから考える最適なアプローチ
（日本医科大学付属病院心臓血管集中治療科） 澁谷 淳介

出口戦略を見据えたIMPELLA管理－エスカレーションの最適なタイミングとは－
（信州大学医学部附属病院循環器内科） 鈴木 翔

第23回ダイバーシティ・フォーラム

13:20-14:50

座長（日本医科大学付属病院循環器内科） 岩崎 雄樹

座長（自治医科大学循環器内科学データサイエンスセンター） 牧元 久樹

Beyond Borders: そのキャリア、国内限定でいいの？

海外留学の経験を活かしたキャリア形成や海外での活躍を目指す若手医師に向け、3名の先輩医師から留学体験談を語ってもらいます。

世界を舞台に、ゆるやかにキャリアアップする
（京都大学大学院医学研究科デジタルヘルス学講座） 中尾（舩方） 葉子

留学のその先に...
（日本医科大学千葉北総病院循環器内科） 植竹 俊介

地域医療から海外留学へ
（自治医科大学内科学講座循環器内科学部門） 藤原 健史

デザートセミナー 3

15:00-15:50

共催：日本メドトロニック株式会社

座長（杏林大学医学部付属病院） 松尾征一郎

「働き方改革と心房細動治療の両立を目指して」
・今までの心房細動治療におけるワンオペレーター ABL
・当院でのPFAワンオペレーター ABL現状や方法
（日本医科大学付属病院） 藤本 雄飛

一般演題 セッション7 先天性/基礎研究/その他
16:00-17:00

座長（東京大学医学部附属病院循環器内科） 藤生 克仁

座長（日本医科大学付属病院心臓血管外科） 鈴木 憲治

コメンテーター（慶應義塾大学医学部循環器内科） 西山崇比古

Ⅲ-22 成人期に診断された左冠動脈肺動脈起始症に対し外科的治療を施行した1例

（榊原記念病院心臓血管外科） 矢野 敦之
角 康平、尹 亮元、大野 真、中原 嘉則、
岩倉 具宏

Ⅲ-23 重症三尖弁閉鎖不全症・心房細動を伴った部分肺静脈還流異常に対して外科的治療が奏効した一例

（総合病院土浦協同病院初期研修医） 笹尾 拓生
（総合病院土浦協同病院） 広岡 一信、渡邊 大樹、木下 亮二、松本 龍門、
岡口 和也

- Ⅲ-24 プレセニリン2欠損心筋細胞の超微形態学的解析
 (日本医科大学多摩永山病院循環器内科) 齋藤 恒徳
 (日本医科大学大学院循環器内科学分野) 菅原 一樹、中野 博之、小谷英太郎
 浅井 邦也
- Ⅲ-25 心嚢ドレナージを要した地中海熱に合併した心膜炎の一例
 (横浜市立大学医学部医学科) 後藤 茉莉
 (横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター内科) 寺坂 謙吾、桐ヶ谷 仁、松下 絢介、郷原 正臣、
 岡田 興造、小菅 雅美、海老名俊明、菅野 晃靖、
 日比 潔
 (横浜市立大学附属市民総合医療センターリウマチ膠原病センター) 橋本 詠仁
- Ⅲ-26 心原性院外心肺停止患者における年齢に基づいた推定心停止時間の至適カットオフ検討
 (埼玉医科大学病院臨床研修センター) 岸 宥希
 (埼玉医科大学総合医療センター循環器内科) 谷 昂大、沼賀 美紀、米山 史華、三好晃太郎、
 橋本 淳貴、北川 快、小形 円香、河原 勇貴、
 奥田 希子、阿部 拓朗、安藤 敏行、小宮山英徳、
 石原 嗣郎、重城健太郎
- Ⅲ-27 冠動脈3枝病変と悪性胸腺腫の一次的合同手術の一例
 (日本大学病院循環器内科) 管波 嵩彦
 佐々木 潤、大角 彰仁、磯 一貴、八木 司、
 深町 大介、松本 真明、横山 勝章、松本 直也、
 大塚 直人、奥村 恭男
 (日本大学病院心臓血管外科) 花村 太輔、北住 善樹、大場 正直、田岡 誠
 (日本大学病院呼吸器外科) 今中 大起、坂田 省三
- Ⅲ-28 侵襲性インフルエンザ桿菌non-type Bによる化膿性心膜炎に対し心嚢ドレナージ、心膜開窓術を施行した一例
 (日本大学医学部内科学系循環器内科学) 莫根 康平
 堀 光一郎、新井 陸、岩田良太郎、富松 聡明、
 奥村 恭男
 (日本大学医学部外科学系心臓血管外科分野) 田中 正史

第Ⅳ会場

一般演題 セッション8 虚血性心疾患1

9:10-10:00

座長（湘南大磯病院循環器内科） 高橋佐枝子

座長（日本医科大学多摩永山病院循環器内科） 中野 博之

コメンテーター（帝京大学ちば総合医療センター第三内科） 吹野 恵子

Ⅳ-1 糖尿病ケトアシドーシスに伴い一過性に急性心筋梗塞様の所見を呈した一例

（横浜南共済病院循環器内科）

山口 奈桜

清水 雅人、池田 博、清水 厚哉、酒井 瑛子、

辛島 千尋、山口 正男、関川 雅裕、加藤 信孝、

島田 博史、鈴木 秀俊、藤井 洋之、鈴木 誠

（東京科学大学医学部循環器内科）

笹野 哲郎

Ⅳ-2 心筋梗塞を発症した冠動脈疾患リスクのない若年男性の一例

（済生会横浜市東部病院循環器内科）

村井 篤弥

小林 範弘、藤井陽太郎、谷中 夏海、瀬戸長雄介、

深川 知哉、岸田登志彦、山口 航平、堤 正和、

毛利 晋輔、伊藤 良明

Ⅳ-3 急性心筋梗塞後にelectrical stormを発症し、ECPELLA管理を含む集学的治療が奏功した一例

（前橋赤十字病院）

五十嵐宏伸

小林 洋明、梶原 啓吾、児玉 智華、西尾 理沙、

富澤 美夏、岡田 英樹、佐々木孝志、峯岸美智子、

庭前 野菊、丹下 正一

Ⅳ-4 ピロリン酸シンチグラフィーでトランスサイレチン型心アミロイドーシスの鑑別を要した陳旧性心筋梗塞の1例

（自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科）

橋元由紀子

牧 尚孝、大橋 潤平、長谷川宏子、山本 真吾、

林 達哉

Ⅳ-5 可逆性脳血管攣縮症候群に合併した冠攣縮性狭心症の1例

（立川総合病院循環器内科）

山崎 祐輔

高橋 稔

Ⅳ-6 多嚢胞性卵巣症候群と偏食により不安定狭心症に陥った若年女性の1例

（昭和医科大学江東豊洲病院初期研修医）

松田 高輝

（昭和医科大学江東豊洲病院循環器内科）

若林 公平、合田 周平、浅川 将輝、石永 智之、

相澤 直樹、柴田 恵多、古屋 貴宏、佐藤 千聡、

西蔵 天人、池田 尚子、丹野 郁

一般演題 セッション9 虚血性心疾患2

10:05-10:40

座長（三井記念病院循環器内科） 田邊 健吾

座長（山梨大学医学部附属病院循環器内科） 堀越 健生

コメンテーター（日本医科大学付属病院循環器内科） 野間さつき

Ⅳ-7 若年男性の多枝に解離を認めた特発性冠動脈解離(SCAD)の1例

（心臓血管研究所付属病院内科）

新井 基広

嘉納 寛人、岸 幹夫、松野 俊介、矢嶋 純二、

及川 裕二

IV-8 石灰化を伴う分岐部病変のPCIに際し、イメージングを活用した病変処理が側枝保護に有用であった一例
 (聖隷横浜病院心臓血管センター内科) 笠間 武瑠
 長谷川和喜、仙波 貴之、中島 啓介、河合 慧、
 新村 剛透、芦田 和博

IV-9 心室細動の原因として心外膜冠動脈攣縮と冠動脈微小循環障害の双方の関与が疑われた14歳女性
 (東京女子医科大学附属足立医療センター心臓血管診療部/東京女子医科大学循環器内科) 中田 悠貴
 (東京女子医科大学附属足立医療センター心臓血管診療部) 森岡 佑太、山田 隆弘、岩波 裕史、嵐 弘之

IV-10 精巣腫瘍に対し化学療法中にST上昇型心筋梗塞を発症した一例
 (帝京大学医学部附属病院循環器内科) 大宮 譲
 三浦 瑞樹、渡邊 雄介、鬼頭 健人、荒川 雅崇、
 井関 洋成、片山 大河、山本 裕貞、片岡 明久、
 横山 直之、上妻 謙

一般演題 セッション10 虚血性心疾患3 10:45-11:20

座長 (船橋市立医療センター心臓血管センター循環器内科) 青山 里恵
 座長 (墨東病院循環器科) 大橋 浩一
 コメンテーター (前橋赤十字病院心臓血管内科) 庭前 野菊

IV-11 超低心機能に伴う2次性MRに対しCABG4吻合+MVRを行い心機能が著明に改善した一例
 (三井記念病院心臓血管外科) 和田 拓己
 三浦 純男、竹谷 剛、大野 貴之
 (三井記念病院循環器内科) 田邊 健吾

IV-12 頻脈性心房細動に対するランジオロール使用後に冠攣縮による心筋梗塞をきたした一例
 (筑波メディカルセンター病院循環器内科) 桑山 明宗

IV-13 心膜液貯留を伴ったST上昇型急性心筋梗塞の一例
 (埼玉メディカルセンター循環器内科) 小池 正隆
 鶴巻 良允、中村 百花、木葉 克行、和田 浩、
 平原 大志、久保 典史
 (自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科) 田島 匠

IV-14 右冠動脈瘤に対してdirect anastomosisを用いて血行再建を行った1例
 (東京女子医科大学病院心臓血管外科学) 塩谷晃一郎
 奥蘭 康仁、服部 将士、市原 有起、森田 耕三、
 浜崎 安純、新浪 博士

一般演題 セッション11 肺高血圧 11:30-12:10

座長 (東京大学医学部附属病院循環器内科) 皆月 隼
 座長 (北里大学医学部循環器内科学) 石井 俊輔
 コメンテーター (自治医科大学臨床薬理学・循環器内科学) 今井 靖

IV-15 心室中隔欠損閉鎖術後30年の経過で肺高血圧症を発症した1例
 (山梨県立中央病院) 宮原 徳也

IV-16 薬物療法継続を断念したキャッスルマン病による第5群PHの1例

(東邦大学医療センター大橋病院循環器内科)

柏崎 駿
加藤 豪浩、池田 長生、福山 千仁、浅見 雅子、
林 典行、飯島 雷輔、原 英彦

IV-17 慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)を併発したEhlers-Danlos症候群の一例

(信州大学医学部医学科)

甲斐 健佑
青木 壮則

(信州大学医学部附属病院循環器内科)

木村 和広、能見 英智、西川 賢、鈴木 翔、
吉江 幸司、桑原宏一郎

IV-18 子宮腫瘍による骨盤内静脈圧迫から生じた慢性血栓塞栓性肺高血圧症の2例

(東海大学医学部付属病院臨床研修部)

古田 至

(東海大学医学部付属病院循環器内科)

中村 則人、大村 遼資、佐藤 優、村上 力、
伊地知 健、大野 洋平、鳥居 翔、宮本 淳一、
永井 知雄、網野 真里、吉岡公一郎、伊刈 裕二

IV-19 慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する肺血管拡張薬投与における考察～二症例の経験より～

(新潟市民病院循環器内科)

大石 裕人

尾崎 和幸、荻部 哲也、瀬尾 友太、大窪 愛香、
原 悠輔、秋山 琢洋、米山晋太郎、柏 麻美、
林 由香、田中 孔明、保坂 幸男、高橋 和義

ランチョンセミナー 4

12:20-13:10

共催： Bristol・マイヤーズスクイブ株式会社/ファイザー株式会社

座長 (新東京病院心臓内科)

清水 渉

2025年問題をふまえた循環器診療 ―腎臓に配慮した抗血栓療法―

(群馬大学大学院医学系研究科内科学講座循環器内科学)

石井 秀樹

会長企画セッションⅡ

13:20-14:50

座長 (杏林大学医学部付属病院循環器内科) 副島 京子

座長 (日本医科大学付属病院循環器内科) 相澤 義泰

ペーシング治療の最前線 ～その問題点と新たな展開～

本セッションでは、ペーシング治療における最先端の話題を、各方面で活躍されているエキスパートの先生方を演者に迎え、治療戦略を多角的に議論し、最新の知見を共有する。

Fantastic Four時代の心臓再同期療法の役割

(静岡医療センター循環器科)

小鹿野道雄

心臓再同期療法 最近の話題

(虎の門病院循環器センター内科)

西山 信大

刺激伝導系ペーシング (生理的ペーシング)

(杏林大学医学部不整脈先進治療学研究講座)

佐藤 俊明

Lower rate intervalを考えたことありますか? ～デバイス心拍数設定を科学する～

(横浜労災病院不整脈科)

小和瀬晋弥

一般演題 セッション12 心臓・腫瘍/腫瘍循環器
15:00-15:40

座長 (国立がん研究センター東病院循環器科) 田尻 和子
座長 (がん・感染症センター都立駒込病院循環器内科) 北原 康行
コメンテーター (横浜市立みなと赤十字病院循環器内科) 有馬 秀紀

- IV-20 心内超音波で診断された左房壁内血腫の一例
(大久保病院循環器内科) 浦上 直人
岡野 喜史、三舟 大和、竹田 康佑、森山 優一、
秋津 克哉、谷井 博士、鈴木 和仁
(広尾病院心臓血管外科) 片岡 豪、伊藤 聡彦
- IV-21 右房・右室内腔を占拠する巨大腫瘍に伴う心原性ショックを呈した一例
(慶應義塾大学病院循環器内科) 田村 匡史
白石 泰之、梅井 智彦、山下 修平、井部 進、
品田慶太郎、平出 貴裕、岸野 喜一、小平 真幸、
鶴田ひかる、香坂 俊、家田 真樹
(慶應義塾大学病院血液内科) 古屋 淳史、甲田 祐也、片岡 圭亮
- IV-22 化学療法により循環動態を是正し得た癌性心膜炎合併悪性リンパ腫の一例
(昭和医科大学藤が丘病院循環器内科) 井關 彩乃
土至田 勉、呉 元喜、大村 歩、間瀬 浩、
鈴木 洋
- IV-23 左間欠性跛行を発症した陳旧性心筋梗塞の一例
(三井記念病院循環器内科) 松本 卓也
金沢 舞香、郷野 瑞希、横島 健人、土井 脩平、
三木 広亮、桂 茉衣、杉山 晴紀、三輪晋太郎、
西村 陽平、根本 脩平、権田 勇樹、芦浦 大輝、
堀内 優、阿佐美匡彦、谷脇 正哲、湯澤ひとみ、
小宮山浩大、田中 旬、田邊 健吾
- IV-24 多量の再発性悪性心嚢水貯留に対しバルーン心膜切開術を施行した症例
(国際医療福祉大学成田病院循環器内科) 宮本 敏弘

第V会場

一般演題 セッション13 心筋炎・心筋症1

9:00-9:40

座長（聖マリアンナ医科大学循環器内科） 出雲 昌樹
座長（秀和総合病院循環器内科） 木村 文香
コメンテーター（自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学兼循環器内科学） 桑原 政成

V-1 微小血管狭心症を初発とした心アミロイドーシスの1例

（国際医療福祉大学病院初期研修医） 蘆田 知紗
（国際医療福祉大学病院循環器内科） 篠崎真莉子、渡邊 仁美、三木 景太、福田 浩二、
武田 守彦
（国際医療福祉大学病院病理部） 中里 宣正
（信州大学内科学第三教室） 吉長 恒明、佐藤 充人

V-2 非虚血性心筋症による心肺停止蘇生後の心原性ショックにECMO+IMPELLA管理を行い良好な経過を辿った一例

（前橋赤十字病院心臓血管内科） 児玉 智華
庭前 野菊、梶原 啓吾、五十嵐宏伸、西尾 理沙、
富澤 美夏、岡田 英樹、佐々木孝志、峯岸美智子、
小林 洋明、丹下 正一

V-3 Entrectinib服用患者に発症した劇症型心筋炎の一例

（東京慈恵会医科大学附属第三病院） 太田 雄大
王 琢矢、古賀 堇、森田 哲朗、三田 光慶、
吉田 律、香山 洋介、宮永 哲、芝田 貴裕
（東京慈恵会医科大学附属病院循環器内科） 吉村 道博

V-4 両心室ペースング機能付植え込み型除細動器留置後に頻回な心室頻拍から診断された心サルコイドーシスの一例

（三井記念病院） 下野 里奈
堀内 優

V-5 左室流出路狭窄をきたしたたこつぼ症候群の一例

（千葉市立青葉病院循環器内科） 宮原 友輝

一般演題 セッション14 心筋炎・心筋症2

9:45-10:25

座長（心臓血管研究所附属病院循環器内科） 廣田 尚美
座長（東京医科大学病院循環器内科） 手塚 絢子
コメンテーター（東京科学大学循環器内科） 立石 遼

V-6 心房細動治療中の手根管症候群診断からアミロイドーシス診断となった一例の報告

（昭和医科大学横浜市北部病院循環器センター） 佐藤 洋俊
松田 敏彦、好廣 勝哉、豊島 大貴、宜保 雄磨、
大倉 武、伊藤 有輝、藤岡 立樹、薄元宗一郎、
嶋津 英、斎藤 惇平、木村 太朗、大山 祐司、
井川 渉、荏原誠太郎、岡部 俊孝、磯村 直梁、
落合 正彦

V-7 左室中部限局たこつば型心筋症による心破裂に対し集学的治療を行い救命した一例

(日本医科大学千葉北総病院集中治療室)

高橋 應仁
白壁 章宏、嶋原 祥太、澤谷 倫史、谷 憲一、
諸岡 雅城、古澤 佳明

V-8 がん治療関連心機能障害 (CTRCD) 発症予測における新規心エコー指標Myocardial Work Index (MWI) の意義

(防衛医科大学校医学科)

(防衛医科大学校循環器内科学)

(防衛医科大学校集中治療部)

長田 泰知
長友 祐司、内藤 朱美、河合 茜、岩下 碧、
竹藤亜紗子、池上 幸憲、足立 健
安田理紗子、眞崎 暢之

V-9 心室頻拍に対してアミオダロンが有効な高齢の不整脈源性右室心筋症の1例

(東京女子医科大学附属足立医療センター卒後臨床研修センター)

(東京女子医科大学附属足立医療センター心臓血管診療部)

(東京女子医科大学附属足立医療センター心臓血管診療部/東京女子医科大学循環器内科)

東 幸太
森岡 佑太、山田 隆弘、岩波 裕史、嵐 弘之
中田 悠貴

V-10 単純CTで心筋上脂肪組織内にカプセル状軟部組織が出現、肉芽形成が疑われた、肺血栓塞栓症と腎臓病の1症例

(国際医療福祉大学市川病院循環器内科)

(国際医療福祉大学医学部成田病院循環器内科)

(国際医療福祉大学医学部三田病院放射線科)

船橋 伸禎
津嶋 映美、野島 永司
吉澤 彰宏、河村 朗夫
國松 聡

一般演題 セッション15 心筋炎・心筋症3/心内膜炎

10:30-11:20

座長 (東海大学医学部付属八王子病院循環器内科) 牛島 明子

座長 (昭和医科大学藤が丘病院循環器内科) 曾根 浩元

コメンテーター (東海大学医学部循環器内科学) 伊地知 健

V-11 逆たこつば型心筋症を発症した褐色細胞腫の一例

(広尾病院循環器科)

土屋 力
水沼 吉章、砂川 昌隆、佐々木高史、山岡広一郎、
鯨岡 裕史、新井 智之、吉田 精孝、笠野 健介、
高橋 正雄、北條林太郎、土山 高明、深水 誠二

V-12 失神発作を契機に診断された左室緻密化障害の一例

(船橋市立医療センター臨床研修センター)

(船橋市立医療センター心臓血管センター循環器内科)

福田 国彦
青山 里恵、堀江 華奈、須藤 洋尚、林 智彦、
丘 慎清、内山 貴史、岩田 曜、石脇 光、
沖野 晋一、福澤 茂

V-13 心アミロイドーシスが疑われたが急性好酸球性心筋炎と診断・加療し、ICDを回避しえた一例

(日本赤十字社医療センター循環器内科)

(東京大学医学部附属病院循環器内科)

佐々木 寧
小島 敏弥、曾根田佳久、越田 直也、小林 裕貴、
山本 溪介、瀧澤 雅隆、魚住 博記、池ノ内 浩
武田 憲彦

V-14 甲状腺クリーゼを契機に発覚した心室中部型たこつば型心筋症の一例

(聖マリアンナ医科大学病院循環器内科)

鯨島 未奈
明石 嘉浩、出雲 昌樹、田邊 康宏、石橋 祐記、
鈴木 規雄、佐藤 如雄、宮原 大輔、金光 陽子、
齊藤 亜実

V-15 黄色ブドウ球菌による化膿性心膜炎に対して外科的開窓ドレナージ術が奏功した若年患者の一例

(多摩総合医療センター循環器内科)

三吉野 一
宮部 倫典、飯島 千博、神崎 拓、川地 祐輔、
蔡 梨華、田中 酉佳、藤井 駿、小川 誠、
三輪 裕仁、守井 悠祐、立石 桜、櫻井進一朗、
三ツ橋佑哉、磯貝 俊明、加藤 賢、田中 博之

V-16 外科的治療を要したthree noes 三尖弁感染性心内膜炎の一例

(伊那中央病院循環器内科)

高木 恒希
大川慶視郎、小山 由志、長谷川和輝、宮城 拓弥、
酒井 貴弘、小田切久八、北林 浩

一般演題 セッション16 弁膜症

11:30-12:10

座長 (防衛医科大学校病院集中治療部・循環器内科) 安田理紗子

座長 (成田赤十字病院循環器内科) 大野 祐司

コメンテーター (日本医科大学付属病院循環器内科) 関 俊樹

V-17 遺伝性の僧帽弁逸脱症が疑われた重症僧帽弁閉鎖不全症の一例

(高崎総合医療センター心臓血管内科)

瀬田 博貴
広井 知歳、福田 延昭、太田 昌樹、村田 智行、
小林 紘生、高橋 伸弥、羽鳥 直樹、柴田 悟、
大駒 直也、飯塚 拓巳、佐藤新之介

V-18 術後41年経過したStarr-Edwardsボール弁の一例

(東京女子医科大学附属足立医療センター心臓血管外科)

池原 大烈
古川 博史、道本 智、東 隆

V-19 PASCALシステムを用いた経カテーテル的修復術により再発性多発軟骨炎合併の僧帽弁閉鎖不全症を治療した一例

(東京女子医科大学病院循環器内科)

野本 彩名
大槻 尚男、川本 尚宜、吉川 将史、柴橋 英次、
稲垣 裕介、小暮 智仁、小柳 千紘、山口 淳一
(東京女子医科大学病院心臓血管外科) 道本 智、新浪 博

V-20 HTLV-1キャリアに合併した大動脈弁/僧帽弁肥厚、巨大肺動脈瘤の1例

(杏林大学)

(杏林大学循環器内科)

(杏林大学血液内科)

(杏林大学心臓血管外科)

(杏林大学病理部)

山口 貴之
合田あゆみ、渡邊 貴之、長江 篤季、池脇 宏嗣、
南島 俊徳、河野 隆志、副島 京子
高山 信之
窪田 博
長濱 清隆

V-21 出産・育児後に生体弁から機械弁に変更した狭小僧帽弁輪に対するロボット支援下再々僧帽弁置換術の一例

(千葉西総合病院)

新妻 楠望
樋熊 佑香、牛島 将希、安元 勇人、黒田 美穂、
林 祐次郎、中山 泰介、鶴田 亮、伊藤雄二郎、
中村 喜次
(榊原記念病院付属クリニック循環器内科) 中野 清治

ランチョンセミナー 5

12:20-13:10

共催：ポストン・サイエンティフィックジャパン株式会社
座長（水戸済生会総合病院） 青沼 和隆

ADVANCE to the Next AF Ablation
～ What's the FARAPULSE ～

FARAPULSE200,000例がもたらす特徴と豊富なエビデンス
（千葉大学大学院医学研究院循環器内科学） 近藤 祐介

FARAPULSEの臨床使用経験から考察するPFAのメリット
（土浦協同病院） 久佐 茂樹

学術委員会企画セッション
13:20-14:50

座長（まりこどもクリニック港南台小児科・小児循環器内科） 岩本 眞理
座長（獨協医科大学心臓・血管内科/循環器内科） 豊田 茂

心臓検診の新たな時代へ ―最新ガイドラインからデジタル化を考える―

今回新たに改訂された学校心臓検診の新ガイドラインの概要と、身体所見の重要性、さらに今後その活用が期待される AI の最新動向について解説します。

学校心臓検診 オーバービュー

（まりこどもクリニック港南台小児科・小児循環器内科）	岩本 眞理
（国立循環器病研究センター臨床検査部）	相庭 武司
（国立循環器病研究センター小児循環器科）	加藤 愛章
（手稲溪仁会病院小児科）	上野 倫彦
（三重大学大学院医学系研究科小児科）	三谷 義英
（新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療センター小児科）	鈴木 博
（富山大学医学部小児科）	廣野 恵一
（三重大学医学部小児科）	澤田 博文
（横浜医療センター小児科）	鉾 竜範
（茨城県立こども病院小児循環器科）	林 立申
（静岡県立こども病院不整脈内科）	芳本 潤

心臓検診はまず身体所見から
（獨協医科大学埼玉医療センター循環器内科） 小林さゆき

心臓検診におけるAI心電図の活用
（東京科学大学循環制御内科学） 笹野 哲郎

人工知能を用いた循環器希少疾患の検出
（東海大学医学部総合診療学系・総合内科学） 後藤 信一

一般演題 セッション17 大動脈
15:00-15:35

座長（上尾中央総合病院心臓血管外科） 堀 大治郎
座長（北里大学医学部総合診療部/循環器内科） 北里 梨紗
コメンテーター（川崎幸病院大動脈センター） 坪 宏一

V-22 Stanford A型急性大動脈解離と急性肺血栓塞栓症が併発し手術のタイミングに苦慮した一例
（相澤病院循環器内科） 寺岡 奈美
鈴木 智裕、井上未奈美、町田 圭介、千田 啓介、
竹内 崇博、相澤 克之、安河内 聡

V-23 Stanford B型急性大動脈解離に大動脈食道瘻を合併し死亡した一例
(北里大学病院循環器内科) 福澤 美穂
小林 周平、中村 洋範、石末 成哉、深谷 英平、
阿古 潤哉

V-24 吻合部仮性動脈瘤によるバイパスグラフト狭窄進行が疑われた1例
(東京慈恵会医科大学心臓外科) 吉村 直紘
高木 智充、石割 圭一、辻本 貴紀、前田 恵、
桐谷ゆり子、一原 直昭、松村 洋高、益澤 明広、
儀武 路雄、長堀 隆一、國原 孝

V-25 Stanford分類B型の大動脈解離の発症を契機にIgG4関連大動脈周囲炎が疑われステロイド治療を行った一例
(大森赤十字病院循環器内科) 三枝 雄樹
奥田 純、島田 基、川島 千佳

一般演題 セッション18 デバイス
15:35-16:10

座長(筑波大学医学医療系循環器内科) 五十嵐 都
座長(東京大学医学部附属病院循環器内科) 荷見映理子
コメンテーター(国立国際医療研究センター病院循環器内科) 榎本 善成

V-26 CRT-D移植後より増加したincessant型非持続性心室頻拍が、LVリードの抜去によって消失した1例
(横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター内科) 近藤 寿哉
堤 勝彦、木村裕一郎、菅野 晃靖
(横浜市立大学附属病院循環器内科) 日比 潔

V-27 洞不全を認めたが出血傾向のためリードレスペースメーカーを挿入した慢性骨髄単球性白血病の一例
(横須賀市立うわまち病院循環器内科) 尾村 有己
荒木 浩、羽柴 克孝、大橋龍太郎、山口 貴宣、
米澤 将克、圓谷 紘乃、南本 祐吾、山脇 理弘、
泊口 哲也、黒木 茂、岩澤 孝昌、沼田 裕一

V-28 当院における穿刺部止血デバイス(Perclose ProStyle™)の術後感染症例と使用成績
(AOI国際病院循環器内科) 米内 竜
鎌田 龍明、川島 朋之、白井 康大、川端美穂子、
平尾 見三

V-29 ウェアラブルデバイスで測定した心拍数の精度の検証
(自治医科大学附属病院) 廣池 英紀
藤原 健史、青山 泰、横田 彩子、鈴木 規泰、
小森 孝洋、牧元 久樹、荻尾 七臣
(自治医科大学データサイエンスセンター) 大倉 綾子
(京都大学大学院医学研究科予防医療学分野) 石見 拓

医療安全・医療倫理に関する講習会(DVDセッション)
16:10-18:10

本セッションでは、第89回日本循環器学会学術集会で収録したプログラムをご覧ください。

第276回日本循環器学会関東甲信越地方会

若手医師・研修医・医学生・コメディカルのための 臨床心臓解剖

～実心臓で振り返る心臓構造と循環器診療～



講師 井川 修 先生

セントマーガレット病院 内科・循環器内科

本学会では、教育セミナーとして(若手)医師・研修医・コメディカル・医学部学生の皆様(事前予約制)を対象とする心臓ウェットラボ(午前・午後)を企画させていただきました。ヒト心臓に比較的近い形態を有する豚実心臓を、実臨床に促した形で理論的に切開、展開しながら、循環器診療に必要な構造を確認していきます。「普段、当たり前のこと、既に結論が出ていること」として片付けられている構造の中にも、「構造のロジック」を用いて緻密な観察を行うと、ときに「思いがけない発見と、新たな展開」があることを是非、感じ取っていただきたいと思います。

なお、会場には心臓を含むヒト体幹を、様々な角度で切断した数々のヒト体幹・心臓断面写真パネルを展示しております。ご参考にしていただけたら幸いです。

第一部

10:30 ～ 11:30

第二部

13:20 ～ 14:20

定員

各回12名(抽選)

場所

ステーションコンファレンス東京
6階 第VI会場 (602D)

お申込み

事前申し込み制

※当日10名程度の立ち見も受け付けております。

申込締切:5月15日(木)

共催:日本光電工業株式会社



一般社団法人日本循環器学会 支部規程

(総則)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会（以下「日本循環器学会」という）各地区の支部（以下「各支部」という）の遵守すべき事項を定める。

(事務局)

第2条 各支部の事務局は、日本循環器学会定款施行細則に定める地区に置く。

(目的および事業)

第3条 各支部は日本循環器学会の目的達成のため次の事業を行う。

- 1) 地方会の開催
- 2) 日本循環器学会国際トレーニングセンター（JCS-ITC）としての講習会等の開催
- 3) 日本循環器学会本部からの委託事項の処理
- 4) その他目的の達成に必要な事業

(会員)

第4条 各支部の会員は、当該地区に所属する日本循環器学会の正会員および準会員とする。

2. 支部名誉会員/支部特別会員/支部顧問等の設置は各支部役員会で定めることとする。

(社員)

第5条 社員とは、日本循環器学会定款及び定款施行細則に基づき選出された各支部に所属する社員をいう。

(支部長)

第6条 各支部に支部長1名を置く。

2. 支部長は定款に基づき選出された支部所属理事の協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長は支部を統括する。
4. 支部長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(支部役員)

第7条 各支部に支部役員を若干名置く。

2. 支部役員は支部所属理事及び支部長の推薦で選出された会員とし、支部長を除いた支部役員を支部社員総会で承認する。
3. 支部役員は、地方会、事業計画・報告、予算・決算、その他支部長の求めに応じて支部運営にあたる。
4. 支部役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(支部監事)

第8条 各支部に支部監事を若干名置く。

2. 支部監事は支部長が候補者を会員から推薦で選出し、支部社員総会で承認する。
3. 支部監事は支部の監査を行い、不正の事実があれば支部社員総会及び日本循環器学会本部に報告する。
4. 支部監事の任期は2年とし、連続して就任できる期数は3期までとする。

(支部幹事)

第9条 各支部に支部幹事を若干名置く。

2. 支部事務局担当幹事およびJCS-ITC担当幹事の設置は必須とする。
3. 支部幹事は支部長が会員から選出する。
4. 支部幹事は支部長を補佐し、役員会/社員総会において会計報告及びJCS-ITC業務の報告等を行う。
5. 支部幹事の任期は支部長の任期に準じ、再任を妨げない。

(支部評議員)

第10条 各支部に支部評議員を置くことができる。

2. 支部評議員は会員から選出する。
3. 支部評議員は支部業務を補佐する。
4. 支部評議員の選出方法/任期/定年等は各支部役員会で定めることとする。

(地方会会長)

第 11 条 各地方会に会長 1 名を置く。

2. 地方会会長は支部役員会の推薦で選出し、支部社員総会において承認する。
3. 地方会会長は地方会を主催し、その経理/事業内容を支部役員会及び支部社員総会に報告する。
4. 地方会会長の任期は、主催地方会にかかる業務が完了するまでとする。

(支部役員会)

第 12 条 支部役員会は、支部役員で構成する。

2. 支部役員会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の承認
 - 2) 地方会会長の選出
 - 3) 支部運営上重要な規則の承認
 - 4) その他本支部の運営に必要な事項の確認 (JCS-ITC 報告など)
3. 予算もしくは事業計画に大幅な変更が見込まれる場合には臨時支部役員会を開催しなければならない。
4. 支部役員会は支部長が招集し議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。
5. 支部役員会は過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部役員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
6. 支部役員会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部社員総会)

第 13 条 支部社員総会は、社員で構成する。

2. 支部社員総会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の確認
 - 2) 決定された支部長の確認
 - 3) 支部役員・支部監事・地方会会長の承認または解任
 - 4) 支部運営上重要な規則の確認
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部社員総会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の互選により選出する。
4. 支部社員総会は支部社員の過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部会員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
5. 支部社員総会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部評議員会)

第 14 条 支部評議員会は、支部評議員で構成する。

2. 支部評議員会は年 1 回以上開催し、以下の事項の報告を受ける。
 - 1) 予算・決算
 - 2) 事業計画および事業報告
 - 3) 地方会会長及び地方会開催地
 - 4) 支部長の選出結果
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部評議員会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。

(支部事務局業務)

第 15 条 支部事務局業務とは、支部役員会、支部社員総会、支部評議員会の運営、各事業の補助等をいう。

2. 支部事務局業務は、原則支部年会費収入の範囲内で収支均衡に努めなければならない。
3. 支部事務局業務にかかる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、支部事務局担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。
4. 各支部は全事業の会計報告を毎月すみやかに本部事務局に報告することとする。

(地方会)

第 16 条 各支部は地方会を年 1 回以上開催する。

2. 地方会に演題を提出する者は原則として会員でなければならない。
3. 地方会収支について、原則、収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
4. 地方会において新たな試みを実施する場合は、事前に地方会会長と支部長で協議を行うこととする。
5. 地方会における参加費等の現金取り扱いについて、不正や過誤が発生しない体制を整えなければならない。
6. 地方会の経費精算は、地方会会長もしくは会長が定めた者が内容を確認したうえで実施する。なお全ての精算を原則地方会終了後 2 ヶ月以内に完了させること。

(JCS-ITC 講習会)

第 17 条 各支部は JCS-ITC 講習会を JCS-ITC 担当幹事が計画を取り纏め、開催する。

2. 講習会収支について、原則収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
3. JCS-ITC 講習会に関わる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、JCS-ITC 担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。

附則

- 1) 本規則は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

支部コンプライアンス・倫理規程

（目的）

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会全支部（以下「支部」という）におけるコンプライアンスに関し基本となる事項を定め、もって健全で適正な学会運営及び社会的信頼の維持に資することを目的とする。

（定義）

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 1) コンプライアンスとは、法令、各支部の諸規則を遵守することをいう。
- 2) 支部役職者とは、支部に所属する支部長・支部役員・支部監事・支部幹事・地方会会長をいう。
- 3) 支部職員とは、支部の事務を担当する職員をいう。
- 4) コンプライアンス事案とは、支部の構成員にかかわる法令又は定款等の本学会諸規則や支部会則等に違反、または違反するおそれのある事案をいう。

（支部役職者及び支部職員の責務）

第3条 支部役職者・支部職員は、支部の定める理念および目標を実現するため、それぞれの責任を自覚し、コンプライアンスの重要性を深く認識するとともに、人権を尊重し、高い倫理観を持って行動しなければならない。

2. 支部役職者・支部職員は、次に掲げることを理由として、自らのコンプライアンス違反行為の責任をのがれることはできない。

- 1) 規程について正しい知識がなかったこと
- 2) 規程に違反しようとする意思がなかったこと。
- 3) 支部の利益に資する目的で行ったこと

附 則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部運営内規

(総則)

第1条 この内規は、一般社団法人日本循環器学会 支部規程を関東甲信越支部（以下「本支部」という。）において運用するために必要な事項を規定し、円滑な学会活動を推進することを目的とする。

(支部事務局)

第2条 本支部における支部事務局を東京都新宿区笹原町43 新神楽坂ビル2F 有限会社ビジョンブリッジ内に設置する。

(支部長)

第3条

2. 2年毎に行われる理事選出選挙の後、支部規程第6条2項に沿い支部長を決定するが、支部長の任期開始日は7月1日からとする。
3. 支部長は日本循環器学会の関東甲信越地区で選出された理事の互選によって決定され、当該年度における本支部の事務を処理する。
4. 支部規程第6条の4項に沿い、支部長の任期は2年とし再任を妨げないとするが、本支部における支部長の連続して就任できる期数は2期（通算4年）までとする。
5. 支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(副支部長)

第4条 本支部に副支部長1名を置く。

2. 副支部長は支部所属理事の中から協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長に事故あるとき、又は支部長が別の支部へ異動したとき、副支部長を新たな支部長とする。この場合の任期は、退任した支部長の任期に準ずる。
4. 副支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を順守しなければならない。

(支部役員)

第5条

2. 支部役員は、支部規程第7条1項に沿い、支部所属理事の他、支部に所属する社員から支部長が推薦した者が務める。
3. 支部役員の定数は、本支部においては16名程度とする。内訳としては支部に所属する理事（関東甲信越地区、女性、小児科、外科）とその他の役員とする。
4. 支部役員は、関東甲信越地区の理事が推薦する、教授または部長以上の支部所属の社員とし、任期2年で再選は妨げない。関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
5. 支部役員は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部監事)

第6条

2. 支部規程第8条1項に定める支部監事の定数は、本支部においては2名とする。
3. 支部規程第8条2項に定める支部監事の選出について、支部長が候補者を社員から選出することとする。なお独立性を鑑み、支部役員、支部幹事との兼務は不可とする。

4. 監事は本支部の会計その他の事務遂行状況の監査を行うものとする。その任期は 2 年とし、再任はさまたげない
5. 支部監事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部幹事)

第 7 条

2. 支部規程第 9 条に定める支部幹事は、本支部においては支部事務局担当幹事 1 名、JCS-ITC 講習会担当幹事 1 名、ダイバーシティ推進委員会担当幹事 1 名とし、支部役員との兼務も可能とする。
3. 支部幹事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
4. 支部事務局担当幹事ならびに JCS-ITC 担当幹事は、それぞれの業務における月度毎の収支状況をモニタリングし、予算進捗確認を行わなければならない。予算に対し収支悪化の場合は、対策を検討し支部長へ報告すること。また収支改善の場合は、その資金活用方法について検討し支部長へ報告することとする。
5. 支部幹事は、会員の中から選出することとし、関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
6. 支部幹事は、それぞれの業務において投資（JCS-ITC 講習会用のマネキン、事務局運営用のパソコン等）が必要な場合は、事業計画、予算において明確化し、支部役員会・支部社員総会において発言し、承認を得なければならない。

(支部評議員)

第 8 条

2. 支部規程第 10 条に定める支部評議員は、現任の支部評議員の推薦により選出し、支部評議員会において承認する。
3. 推薦人は、支部評議員会予定日より 15 日以前に候補者の推薦書を支部事務局へ提出する。
4. 有資格者でありながら推薦人が見当たらない場合は、支部長が推薦人となることが出来る。
5. 支部評議員の被推薦資格は、以下の 3 項をすべて満たすこととする。
 - 1) 65 歳以下で 7 年以上日本循環器学会会員であること
 - 2) 講師又は医長以上である者、または、本会学術集会において特別講演講師、教育講演講師、シンポジウム、パネルディスカッション、ファイヤーサイドカンファランスの演者を担当したことがあるもの
 - 3) 本支部地方会において過去 5 年間に 3 演題以上発表（共同演者でよい）していること。但し、基礎研究者・外科医・小児科医については別途考慮する。

(地方会会長)

第 9 条

2. 支部規程第 11 条に定める地方会会長の選出方法は以下のとおりとする。
 - 1) 資格 : 教授または部長以上の本支部評議員
 - 2) 推薦方法 : 評議員による他薦または自薦に基づき、支部長が提案し支部役員会で選出の上、支部社員総会で承認する。
 - 3) 推薦時期 : 支部役員会開催予定日より 15 日以前に支部長に推薦書を送付する。
3. 地方会会長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
4. 地方会会長は、「臨床研究の利益相反に関する共通指針の細則」に定められた様式の利益相反の自

己申告書を支部長経由で本会へ提出しなければならない。

5. 地方会会長は、地方会開催場所・日程の決定を行う。
6. 地方会の主題および演題の選定および採択は、会長が裁量する。
7. 地方会実施にあたり、会長の推薦にて会長校事務局長を任命してよい。会長校事務局長は、会長からの指示に基づき、地方会運営を補助することとする。
8. 地方会運営にあたる企画会社手数料が過多とならないことを事前に確認しなければならない。
9. 地方会開催にあたり収入の受入れ、費用の精算の為、会長名において専用口座を開設する。口座開設と同時にキャッシュカードを作成する場合は、会長から使用者・保管者を指名し、それ以外のものが利用出来ない体制を構築しなければならない。
10. お届け印、通帳は会長または会長が指名した者が保管する。保管にあたっては必ず施錠し、本人のみが解錠出来る体制としなければならない。

（支部役員会、支部社員総会、関東甲信越地区理事会、支部評議員会）

第10条

2. 支部規程第12条に定める支部役員会は、年1回開催とする。
3. 支部規程第13条に定める支部社員総会は、年1回開催とする。
4. 関東甲信越地区理事による理事会は、年2回開催とする。
5. 支部評議員会は、年3回開催とする

（支部事務局業務）

第11条

2. 支部規程第15条における支部事務局業務は、事務局担当幹事を補佐し、円滑に業務を遂行することを目的として、本業務に従事する人員を支部役員会の承認のもと採用しても構わない。雇用条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。
3. 上記1項の方法以外に、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。（契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。）

（地方会）

第12条

2. 支部規程第16条1項に定める地方会について、本支部は毎年4回地方会を開催する。
3. 地方会の名称は、第〇〇回日本循環器学会関東甲信越地方会とする。
4. 本支部地方会に関する事項は、本会の会告及びその他の手段により会員に広報する。また、その抄録データを本会に提出する。
5. 地方会において市民公開講座及び託児室設置を実施する場合は、本支部より、助成金90万円を地方会事務局に交付する。助成金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
6. 地方会の参加費は要領に別途定めたとおりとするが、参加費を変更する場合は支部役員会での承認を必要とする。
7. 地方会での寄付の受入は、「寄付金取扱規程」に基づき対応する。
8. 地方会における華美な懇親会の開催を禁じる。
9. 地方会当日の現金（参加費）の取扱いにおいて、不正や過誤が発生しないよう関係するスタッフの教育を十分行わなければならない。

10. 地方会経費の精算は、リスク管理の観点から現金での精算を禁じ、原則請求書対応とする。請求書対応が難しい場合は、企画会社・スタッフによる立替精算を行い、後日レシートや領収書をもとに精算する。
11. 地方会終了後、余剰金が発生した場合、支部管轄の地方会口座に振込し、次回以降の地方会補助金とする。その後、口座は解約する。
12. 非会員の招請者、支部役員への待遇については要領に別途定めたとおりとするが、これ以外の対応を行う場合は、支部役員会での承認が必要とする。
13. 地方会時の専門医単位登録について、本会から明示された「単位登録の運営方法について」に沿って対応しなければならない。
14. 地方会演者は、発表時に定められた様式「利益相反の自己申告書」を提示する必要がある。
15. 本支部地方会会長は、若手循環器専門医の育成を目的として、Student Award、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Award を設け、各賞最優秀演題発表者1名、優秀賞2名を顕彰する。実施要領は別途定めたとおりとする。

(JCS-ITC 講習会)

第13条

2. 年4回のインストラクター一覧更新時に、本会事務局より受領したインストラクター一覧を支部長ならびに幹事に提出すること。
3. JCS-ITC 講習会の事務業務（受講料受付・謝金や立替金の精算 等）については支部事務局において実施する。ただし業務の円滑化を目的として、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。（契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。）
4. コース開催日程は、各支部ホームページに掲載することとする。
5. 業務管理を明確化することを目的として、JCS-ITC 業務専用の口座を開設してよい。専用口座の取扱については、要領に別途定めたとおり慎重に行う。
6. コース開催時にコースディレクター等が立替精算をした場合は要領に別途定めたとおりに行い、不必要な経費支出は慎むこと。
7. コース終了後、コースディレクターは参加インストラクター・タスクを一覧化し（以下インストラクター・タスク一覧）、各自立替えしたコース開催地までの交通費を纏め、支部事務局（または外部委託している業者・個人）へ提出しなければならない。また、受講料収益と使用経費を一覧化し、コース毎の収支実績を作成し、合せて支部事務局へ提出する。
8. 各コースディレクターがコースに必要な資金を事前に仮払金として引出して使用する場合は、予め仮払金申請書を作成し、JCS-ITC 幹事のメール承認を要する。
なお、ITC 幹事がコースディレクターとなる場合は、支部長のメール承認を要する。
9. 経費精算において、振込対応では無く、上記の仮払金を活用し現金にて謝金精算や立替精算を行う場合は、必ず受領者から支部宛での領収書を頂き、証憑として支部事務局へ提出しなければならない。
10. 支部事務局（または外部委託している業者・個人）は、提出されたインストラクター・タスク一覧、旅費申請書、領収書等に基づき、謝金（交通費・宿泊費含む）・立替金の精算を行う。また謝金源泉税分の納税を行う。（謝金金額についてはJCS-ITC 規定に則る。また旅費申請書、領収書等の証憑が無いものの精算は出来ない。）

11. 支部事務局は、収入・経費を取纏め(漏れが無いこと、経費使用理由等が明確であること等を再確認)の上、本部事務局へ提出し会計ソフトへの入力を依頼する。

(支部委員会)

第14条

2. 支部長は、本支部の事業の円滑な推進を図るため必要があると認めるときは、役員会の決議を経て、委員会を設置することができる。なお、これを廃止する場合も同様とする。
3. 前条の委員会は、必要に応じて部会、小委員会を組織することができる。
4. 委員会は、目的、委員構成、業務などを規定した支部委員会内規を作成し、役員会の承認を得なければならない。
5. 委員会は、委員長1名および委員若干名で組織する。
6. 委員長は支部長が支部役員の中から指名し、役員会の議を経て選任する。
7. 必要に応じて委員の中から副委員長を置くことができる。
8. 副委員長、委員は委員長が指名し、役員会の議を経て選任する。

附則

- 1) この内規は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この内規改正は、支部役員会において審議し、支部社員総会にて決定する。

令和元年9月28日一部改定

令和2年9月5日一部改定

令和5年10月1日一部改定

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 学術委員会内規

（設置）

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部学術委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

（目的）

第2条 本委員会は、日本循環器学会関東甲信越支部の学術活動を支援することを目的とする。

（組織）

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

（委員）

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

（委員会）

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

（業務）

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 地方会の学術面の向上について検討・協議し、役員会および会長に上申する。

2) その他学術活動に対する支援に必要な業務

（計画・予算）

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

（報告）

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

（改廃）

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 情報・広報委員会内規

（設置）

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部情報・広報・啓発委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

（目的）

第2条 本委員会は、本会のホームページやインターネットを利用した学会員への情報の提供、学術成果の社会への公開と還元、国内外の関連学会の情報提供交換等に関する活動を実施することを目的とする。

（組織）

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

（委員）

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

（委員会）

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

（業務）

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) 学会のホームページの作成、管理及び運用
- 2) インターネットによる本会の情報サービス
- 3) 国内外の関連学会等との情報交換と広報活動
- 4) その他必要な業務。

（計画・予算）

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

（報告）

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

（改廃）

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 ダイバーシティ推進委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部ダイバーシティ推進委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、循環器学分野における男女並びに多種多様人材の共同参画の推進を図り、男女並びに多種多様人材の共同参画の視点に立った教育・研究・就業体制を確立するため、企画・立案・実施に当たることを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。
2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。
2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。
1) 国内外の関連学会・団体等との情報交換および連携
2) 地方会でのダイバーシティ推進セッション等の企画立案・実施
3) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 チーム医療委員会内規

（設置）

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部チーム医療委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

（目的）

第2条 本委員会は、地方会におけるコメディカルとの関わり方の検討および、コメディカル関係の諸学会との連絡調整を行う。

（組織）

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

（委員）

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

（委員会）

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

（業務）

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 地方会におけるコメディカルの位置付けの検討および、コメディカル関係学会との連絡調整をする。

2) 関係諸学会からの依頼に応じて、本委員会において代表の派遣などを選考する。

3) 委員は、関係諸学会への渉外を担当し、外部機関の要請に応じてこれらが主催する会議等に本学会の代表として出席する。

4) その他必要な業務

（計画・予算）

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

（報告）

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

（改廃）

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 地方会あり方検討委員会内規

（設置）

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部地方会あり方検討委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

（目的）

第2条 本委員会は、地方会を活性化することを目的とし、地方会のあり方を検討・協議し、役員会および会長に上申する。

（組織）

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

（委員）

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

（委員会）

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

（業務）

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 若手、女性、メディカルスタッフの参加促進策を検討・協議する。

2) 地方会プログラムの充実化を検討・協議する。

3) その他必要な業務

（計画・予算）

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

（報告）

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

（改廃）

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 予防委員会内規

（設置）

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部予防委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

（目的）

第2条 本委員会は、循環器疾患等の予防に関する事柄について、協議・検討し、役員会上申することを目的とする。

（組織）

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

（委員）

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

（委員会）

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

（業務）

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) すべての国民の循環器疾患等の予防を推進する業務。

2) 予防活動を積極的に推進し、その重要性を社会に発信する業務。

3) 循環器疾患等の予防研究の実施ならびに支援。

4) その他、循環器疾患等の予防に関する必要な業務。

（計画・予算）

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

（報告）

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

（改廃）

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

MEMO



ヒト抗PCSK9モノクローナル抗体製剤

薬価基準収載

レパーサ® 皮下注 420mg オートミニドザ® 140mg ペン

エボロクマブ(遺伝子組換え)注
生物由来製品、処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

Repatha

*販売中止: 経過措置期間満了日 2026年3月31日

※「効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報」等詳細につきましては、電子添文をご参照ください。

製造販売 アムジェン株式会社
東京都港区赤坂九丁目7番1号

【文献請求先及び問い合わせ先】メディカルインフォメーションセンター 0120-790-549

2025年3月作成
EVO256008RM1

WCD Video Communication Platform

https://www.ak-zoll.com/lv_wcdchannel

WCD Channel



WCD Channelは着用型自動除細動器(WCD)について医療従事者間で知識を共有するための新しい動画配信サイトです。医療従事者を第一に考えて、実際に臨床活用している医師や医療従事者からWCDの有用性、活用法、留意点など、診療にお役立ていただく際に押さえておく便利な情報を集約しています。ぜひご視聴ください。



プログラム例 プログラムは随時更新します。

タイトル	演者
小児への着用型自動除細動器(WCD)の有用性と使用経験	埼玉医科大学国際医療センター 小児心臓科 教授 住友 直方 先生
心不全医が考える心不全患者の突然死予防	順天堂大学大学院医学研究科 循環器内科学講座 准教授 末永 祐哉 先生
着用型自動除細動器(WCD)の有用性	北里大学医学部 循環器内科 診療教授 庭野 慎一 先生
医療費助成制度を上手く活用して最善の治療を受けるために	北里大学病院 トータルサポートセンター ソーシャルワーカー 宮本 竜也 先生
小児の心臓性突然死リスクと管理	藤田医科大学 医学部 小児科学 講師 藤藤 和由 先生
虚血性心疾患患者における心突然死リスク評価と予防	帝京大学医学部附属病院 循環器内科 助教 日置 紘文 先生
WCDを活用したICD適応判定の実践	弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座 准教授 佐々木 真吾 先生
WCD着用における臨床工学技士の関わり—ショック治療を経験して—	北里大学病院 ME部 武田 章数 先生
着用型自動除細動器(WCD)の使用経験	金沢大学附属病院 循環器内科 助教 津田 豊輔 先生
突然死予防におけるWCDの役割	東京女子医科大学病院 循環器内科 講師 菊池 規子 先生
低心機能を有する新規発症心不全患者における突然死および致死性心室性不整脈の発現について	神戸大学大学院医学研究科 内科学講座 特命教授 福沢 公二 先生
非虚血性心疾患患者の心臓突然死一次予防を考える	国立循環器病研究センター 副院長 草野 研吾 先生
国循における着用型自動除細動器(WCD)の役割	国立循環器病研究センター 上田 暢彦 先生
一次予防症例に対するWCD使用の実践	小倉記念病院 副院長 循環器内科主任部長 安藤 敬児 先生
心筋梗塞後症例に対するWCDの適応	がん研究会 有明病院 院長補佐 腫瘍循環器・循環器内科部長 志賀 太郎 先生
腫瘍循環器における不整脈	山口大学医学部附属病院 検査部 講師 福田 昌和 先生
着用型自動除細動器の使用経験—WCDの可能性と限界—	

医療機器承認番号: 22500BZ100017000 販売名: 着用型自動除細動器 LifeVest

© 2024 ZOLL Medical Corporation. ZOLLおよびLifeVestはアメリカ合衆国および日本におけるZOLL Medical Corporationの登録商標です。

【選任製造販売業者】

旭化成ゾールメディカル株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-1-1 興和西新橋ビル

TEL: 03-6273-3534 (CMS事業本部)

URL: <https://www.ak-zoll.com/>

ZOLL LifeVest

LV-F1 240908 Rev.1.0

AT-Patch

ATパッチ心電図レコーダ

AT_{sens}

連続7日間
記録可能

1 time
USE

ディスポーザブル…メンテナンスフリー

13g

小型軽量…電池や電極、メモリー一体型

耐水機能 (IP44)

…シャワー入浴可

クリアなECG波形

販売名：ATパッチ心電図レコーダ 一般名：長時間心電用データレコーダ 認証番号：304AHBZX00022000

製造販売業者

日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
<https://www.jll.co.jp>

JLL Japan Lifeline

薬価基準収載

選択的尿酸再吸収阻害薬 一高尿酸血症治療剤一



ユリス錠[®] 0.5mg
1mg
2mg

〔ドチヌラド〕

処方箋医薬品^注

URECE[®] Tablets 0.5mg・1mg・2mg

注）注意—医師等の処方箋により使用すること

※効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む
注意事項等情報は電子添文をご参照ください。



販売＜文献請求先及び問い合わせ先＞

持田製薬株式会社

東京都新宿区四谷1丁目7番地
TEL 0120-189-522（くすり相談窓口）

製造販売元＜文献請求先及び問い合わせ先＞

株式会社 富士薬品

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-12-5 沢田ビル6階
TEL 048-644-3247（カスタマーサービスセンター）

2025年1月作成（N6）



Creating a world where
healthcare has no limits



GE HealthCare

GEヘルスケア・ジャパン株式会社

カスタマー・コールセンター 0120-202-021

【受付時間】9:00～18:00 ※土・日・祝を除く

gehealthcare.com

JB09455JA



BUILDING ON OUR LEGACY OF ENHANCED MAPPING SPEED AND ACCURACY¹

ADVISOR™ HD GRID Xマッピングカテーテル SEは、
これまで以上のマッピングスピードとモデルの正確性を実現します*1

前臨床直接比較試験において、Advisor HD Grid Xマッピングカテーテル SEは、
Advisor HD Grid マッピングカテーテル SEと比較して2つの重要な点が改善されています:



モデル正確性向上
Advisor HD Grid
マッピングカテーテル比¹

マッピングスピード向上
Advisor HD Grid
マッピングカテーテル比¹

* 本データは被験動物6匹を対象とした前臨床動物研究のデータによるもので、必ずしも臨床パフォーマンスを示す結果ではありません。

1. Abbott. Report on file. 91060435. A preclinical study with the objective of comparing Advisor HD Grid X Mapping Catheter, SE to Octaray and Advisor HD Grid Mapping Catheter, SE. Four participating independent physicians performed the study protocol with each of the HD Grid X Mapping Catheter, SE, Octaray, and Advisor HD Grid Mapping Catheter, SE catheters within the atria and ventricles of each of six swine study subjects. The protocol measured each catheter on (1) mapping and modeling speed; (2) model accuracy; and (3) ectopic burden.

アボットメディカルジャパン合同会社

〒105-7115 東京都港区東新橋一丁目5番2号
汐留シティセンター

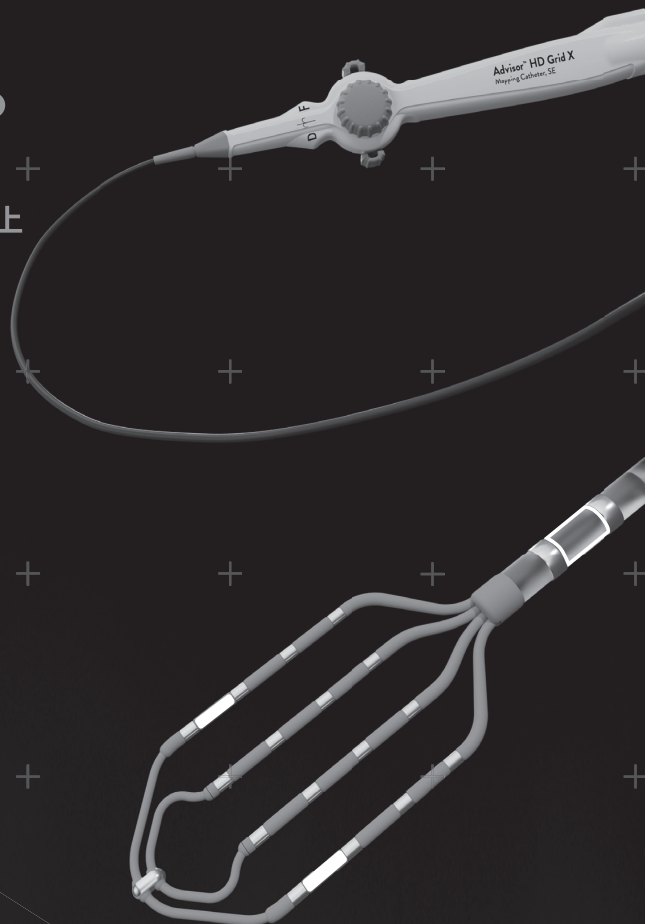
Tel : 03-6255-5740 Fax : 03-6255-5801

販売名: Advisor HD Grid XマッピングカテーテルSE 承認番号: 30700BZX00009000
販売名: Advisor HD グリッドマッピングカテーテルSE 承認番号: 23000BZX00127000

※本品のご使用に際しては、添付文書を必ずお読みください。

TM Indicates a trademark of the Abbott group of companies.

©2025 Abbott. All rights reserved. MAT-2501421 v1.0 | Item approved for Japan use only.





CLTI*治療に新たなオプションの誕生

*包括的高度慢性下肢虚血



吸着型血液浄化器

医療機器承認番号: 30200BZX00250000

製造販売元

株式会社 **カネカ**

〒530-8288 大阪市北区中之島2-3-18

TEL.06-6226-5256

販売元

株式会社 **カネカメディックス**

<http://www.kaneka-med.jp/>

東京事業所 〒107-6028 東京都港区赤坂1-12-32(アーク森ビル)

TEL.050-3181-4100

大阪事業所 〒530-8288 大阪市北区中之島2-3-18(中之島フェスティバルタワー)

TEL.050-3181-4060